京城日報

◎袁總統と帝政の施行期

總統府の高等武官が帝政に就きて十二日某外人に語る所に據れば袁總統は自らの立場より共和政治を宣言せるも國民の意志及び財政の餘裕を得ば直に帝政の施行に移る豫定なり（北京特電）

◎御大禮と各派

御大禮に關する衆議院各派交渉會は十三日午前九時院内議長室に於て開會、花井副議長、黒須（同志）江藤（政友）柏島（國民）橋本（中正）高木（無所屬）岡崎書記官長等列席し左の事項を協議決定せり（東京特電）

一、即位大禮御擧行の際本院は議長をして本院を代表し賀表を奉呈せしむること

一、賀表は起草委員九名をして起草せしむる事

一、右委員の割合は同志會四名、政友會二名、國民黨、中正會、無所屬各一名宛の割合にて選出し十八日迄に課長に申出ること

一、獻納品選擇及實行方法は之れを議長に一任すること

◎乃木伯爵家　斷絶

十三日宮内省宗秩寮より左の發表あり（東京特電）

伯爵乃木希典薨去の處華族令第十二條二號により爵を襲ぐ事を得ざるものとなれり

朝鮮大共進會

◎關門觀覽團

關門日々新聞主催朝鮮物産共進會觀覽團

▲內務大臣祝電

十三日午後三時總督府に著せる內務大臣の祝電左の如し

始政五年記念朝鮮物産共進會は周到熱誠なる御配慮に依り諸般の設備滯り無く進行豫定の通り開場せられ盛大を極むる趣、誠に慶賀に堪へず、玆に祝意を兼ね御成功を禱る

▲通常委員會

共進會通常委員會は十三日午後三時共進會事務所會議室に開催、持地兒玉、山形、各係長以下委員參列し共進會に關する各種の事項に就き凝議打合を行ひ午後五時散會したり

▲執務時間變更

共進會事務所に於ける執務時間は毎日午前八時より午後四時までなりしが十四日より毎日午前八時開始午後四時三十分閉鎖に決せり

三十三名釜山に來著松井及び難波旅館に投宿せり十五日午前十時發の列車にて京城へ向ふ可し（釜山特電）

◎市原總裁

市原鮮銀總裁一行歸任の途十四日釜山に來著午前十時三十分發の列車にて京城へ向へり（釜山特電）

東京發別電

◎露都安全確保さる

露都は今や安全を確保せられ露軍は來る冬季より春季に渉りて獨軍の全滅を籌策せり

◎墺大使米國退去

駐米墺國大使ダンバ氏は愈よ二三日中に米國を退去することゝなれり之に依りて米獨間は猶一層の反感を加ふることゝならん

◎金子子總裁決定

維新史料編纂總裁は土方久元伯辭退し金子堅太郎子就任を承諾せり

◎日支親善實行勸誘

東朝時事の日置北京公使に日支親善の實行を勸誘中なり

▲閉場時間變更

共進會にては從來午後四時を以て一般の入場者を差し止め午後五時各館の門扉を鎖し居たるが今回之れを改正して午後四時四十五分振鈴と共に各館の入口を半閉し午後五時再度の振鈴に依りて全く閉館することゝなれり

▲會場と車類

乳母車は從來共進會場内に入るを許さゞりしが今回入場を許可することゝなれり、但し館内には曳き入ることを得ず、又た競技場に出入する藝妓は化仁門内に人車を曳き入れ居たるが以後は雨天の外之れを許さゞることゝなれり

▲遊戲物許可

共進會興業地域内に設置されたる廻轉鞦韆及び滑臺の二遊戲物は使用を許可されたり前者は料金二錢なれど後者は無料

雜報

◎大典奉獻の紅蔘　目下謹製中

大典に奉獻す可き人蔘は十二日採掘を了りて目下謹製の央に在り、此水蔘は度支部專賣課所管の特別耕作區域中開城郡内より選べる六年生にして約三百斤を收納し出張所に於ては場内を淸淨し係員一同齋戒の下に專念製造中にて既に洗蔘及び蒸蔘の作業を了りたれば乾燥の上優良種五片を撰擇し箱製木箱に納めて奉獻す可く其品位は十五片より二十片品迄なりと

鐵道館前の獅子像（共進會）

◎總督講士招待

寺內總督は十四日午後三時三十分より經學院職員並に入京中の講士十八名を官邸に招き茶菓の饗應ありしが山縣政務總監以下關係各職員參列したり

◎檢查課長會議

總督府にては稅關檢查課長を召集し二十日より二十五日まで六日間總督府第二會議室に同會議を開會の筈なるが時間は毎日午前八時より正午迄なる可く統裁官は荒井長官なり

◎定例長官會議

十四日は定例長官會議當日なるを以て午前九時三十分より總督府第二會議室に開會寺內總督、山縣政務總監以下各部長官局長、立花警務總長、石塚長官代理中村技師等出席し通常政務に就き凝議の上正午散會したり

朝刊と合せて二十頁

定價　一部金三錢　一ヶ月金六拾五錢　[illegible]

廣告料　[illegible]

發行兼編輯人　[illegible]
印刷人　[illegible]
發行所　京城日報社
電話　[illegible]

◎養成所生募集

明年四月入學せしむ可き京城中學校附屬臨時小學校教員養成所生徒三十五名京城高等普通學校附設臨時教員養成所第二部生徒三十名を募集の件發表せられたるが入學試驗は十一月十六七の兩日にして試驗の場所は內地に在りては受驗希望の道府縣とし朝鮮に於ては京城中學校なり

◎京城商議役員會

京城日本人商業會議所にては內鮮兩會議所合併に關し一應解散するか或は現在のまゝにて合併するかに就き來る十七日午後五時より會議所に於て臨時役員會を開くべしと

◎朝鮮彙報會議

總督府にては十三日午前十時より朝鮮彙報會議を開き兒玉總務局長、荻田課長、其他編纂員參集次回の編纂其他に就き打合ありたり

◎各道講士見學次第

十三日經學院に於て執行したる秋季釋奠祭に列席したる各道講士見學の次第を聞くに十四日は午前九時より共進會場の見物あり午後三時半別項所載の如く總督官邸の茶菓饗應を受け夜間は共進會場及び市中の夜景を巡覽し十五日は午前九時より終日共進會各館陳列品を觀覽し十六日は總督府學務課員三人の案內に依り仁川水族館を視察し十七日は大提學朴齊純子の經學院に於ける講演を參聽したる後隨時開散歸途に就く可し

◎兵庫縣觀光團動靜

目下滯在中の兵庫縣有志滿鮮觀光團一行は十六日京城發平壤、義州等を視察の上再び入京し十七日內地に向け引返す由尚ほ滿洲方面の視察をなす等なりしも縣會の都合上歸縣の必要を生じたる爲め已むなく滿洲行を中止したるなりと

觀覽團消息

▲關門觀覽團　關門日日新聞社主催一行[illegible]十五日午後入京の筈

▲兵庫縣有志觀光團　一部は[illegible]

▲金化觀光團　[illegible]

▲鐵原觀覽團　[illegible]

▲金川郡觀覽團　[illegible]

▲大田觀覽團　[illegible]

▲扶餘郡觀覽團　[illegible]

▲京畿郡七十一人　十四日午前八時五十分

▲木浦府珍島郡百二十六人　同上

▲羅州郡七十人　同上

▲長城郡五十五人　十四日入京

▲麗林學校生徒三十六人　同上

▲淮陽郡七十四人　郡參事宋[illegible]仁氏に引率せられ十三日午後入京

▲楊州郡の一團　同上清涼里より入京

▲春川郡の一團　同上兩船にて鷺島着入京

▲公州郡六十名　同上入京

▲全國料理屋組合聯合大會出席者先發隊八十名　十五日午前八時著入京の筈

◎警務部長歸任

會議の爲め上京中なりし平安南道警務部長大橋中佐は十四日朝出發歸任し又黃海道警務部長鹽澤大佐慶尙北道警務部長大佐全羅南道浦野少佐は何れも十四日夕又忠淸南道齋藤少佐は十五日朝南大門發列車にて歸任の筈

◎米國觀光團入京

ダブリュ、エッチ、ウエルチ博士エス、トレックスナー博士夫妻チー、エル、ゲート博士ダブリュ、バットリック氏夫妻及び合嬢一行七名の米國觀光團は內地より十三日夜九時南大門著列車にて入京朝鮮ホテルに投宿せり

■共進會入場者

十三日晝夜（月曜日、曇）

▲晝間　一萬二千百十一人

內地人	三千七百四十八人
朝鮮人	八千二百六十四人
支那人	三十三人
外國人	六十六人

▲夜間　六千八百六十三人

內地人	二千百十一人
朝鮮人	四千七百四十九人
外國人	三人

▲合計　一萬八千九百七十四人

◎鮮銀總裁歸任期

市原朝鮮銀行總裁は十三日夜下關發釜山經由にて歸任の途に就ける旨某所に電報あり、釜山に、泊か否かは不明なれば南大門驛著日は確定せざるも十四日夜若くは十五日朝なるべし又た三島同行理事は總裁歸任次第病氣整養の爲め東上の筈なり

◎古川要塞司令官入京

鎭海灣要塞司令官砲兵大佐古川岩太郎氏は軍司令部と事務打合せの用務を帶び十三日午後龍山著列車にて入京直ちに太陽旅館に投宿せるが氏は二三日滯在の豫定なりと

◎三宅博士の講演

開城の視察を終へて十三日歸京せる三宅米吉博士は十四日午後五時永樂町基督敎靑年會にて南洋新領土視察の講演を爲す

人事消息

▲市原盛宏氏（鮮銀總裁）十四日午後九時[illegible]

▲遠藤柳吉氏（總督府秘書官）十日開城に[illegible]て共進會委員を命ぜらる

▲山岡之一氏（元山土木局出張所長）九日歸任したり

▲岡技博氏（土木局技師）日韓の豫定にて十三日慶州不國寺附近の[illegible]

▲三井榮長氏（總務局技師）十三日內地より

▲大倉喜七郎氏（實業家）同上內地より[illegible]京城南部方面へ

▲坂西大佐（北京公使館附武官）[illegible]朝の途次十三日夜入京朝鮮旅館に

▲ニスセース氏（紐育新聞記者）十三日夜退京釜山へ

▲大塚常三郎氏（內務部第務官）病氣經快十三日夜歸任

▲横井實郎氏（鐵道局技師汽車課長）南滿洲鐵道株式會社線路へ出張を命ぜられ十二日出發

南言北語

米國で能く豫言をやるハリソン大佐が歐洲戰爭の今後を豫言して曰ペンシルバニヤ、マカジーンで發表した▲先に角七八月は能く適中して居る九月には獨軍が西部戰線で總攻擊を開始し多額の彈丸を浪費し、伊太利、塞耳維、羅馬尼は南方で聯結し總攻擊を始め露國は東部及び高加索で攻勢に轉じ君府は陷落して「ダ」海峽は開かる▲十月には佛軍は常に獨逸の攻勢を阻止せられ佛軍は非常に進出し露國はガリシヤを占領し三方から伺牙利に侵入▲墺國政府は獨逸に救助されて避難し獨軍はクルリヤンチヤ及び東普から退却する▲十一月獨軍は更に西部戰線で攻勢に轉ずるも二三箇所を切斷され東部戰線の大部は歐洲戰に參加する▲十二月には佛軍は波蘭から退却しシレシヤへの途は開かれ露軍は獨逸に進擊すでは獨軍は來因河岸に迄る▲十二月には佛、英、露に向つて休戰の止むなきに至り英し獨逸は遂に休戰を哀願する▲當るも八卦當らぬも八卦だが之れで見ると先づ戰爭は今年の十二月で終りかナ▲海軍補充計畫も十三日の防務會議で愈々協定が出來たらしい▲之れで先づ內閣の暗礁は無事乘り越えたが今度は議會ちやが、此方は先づ無事だらう▲入八艦隊から四八艦隊に議つて更に大藏省の查定案を容れたのだから先づ纏が付いた譯だ何と云つても金だからなア▲金ざへあれば陸軍も海軍もドシ〳〵擴張すべしだウンと軍需品の製造でもして露國のみならず英、佛兩國の注文も引き受けるべしだ

寄勢館偶感　無佛陳人

寄勢之名眞不空。知新温古一堂中。五年辛苦經營跡。歷々分明一覽通。

朝鮮彙報

共進會記念號

大正四年九月一日發行

朝鮮彙報共進會記念號

本誌は本年九月始政五年記念朝鮮物産共進會の開催に際し朝鮮總督府の定期發行に係る朝鮮彙報の特別號として發刊し本文を十一章に分ち其各方面の最も精確豐富なる材料に依り該共進會の狀況を詳述するの外朝鮮百般の事項に亘り併合後五箇年間に於ける進步發展の事績を細敍したるものにして共進會觀覽の希望を有する者は勿論苟も朝鮮の實況を視察又は研究せむとするの人士は必ず其の一本を座右に備へざるべからざる好個の指針なり

主要目次

○口繪　共進會會場全景、第一號館、第一號館の內部、第二號館、機械館、參考館、審勢館、美術館、舍利塔、三體佛像、慶會樓、景福宮の一部

○挿繪　朝鮮各地の風俗、景勝、建築物、產業狀況其の他各般の施設約百個を掲載す

○記事　共進會狀況を詳述し、更に併合以後の歷史、地理、人口、風俗、中央地方行政、司法、警察、宗敎、財政金融、交通、產業、貿易、敎育、及衛生の諸章に分ちて併合以後五年間に於ける施政の進步、產業の發展、經濟力の伸張等朝鮮開發の實況を精細に敍說す

○附錄　外金剛隨行記、朝鮮經濟力の進步を示す統計及最近五年司法成績の統計を掲く殊に朝鮮の外帝國本土各殖民地の統計を併せては朝鮮の外帝國本土各殖民地の統計を併記し比較研究に便ならしむ

●本誌は特殊の意匠を凝らしたる美麗なる表裝を施し特に口繪寫眞版及挿繪を增加したる體裁好き二百八十頁の大冊子にして代價は特に定期月刊の彙報と同じく金二十五錢とす

●本誌は京城各書店其の他朝鮮內各地書店に於て販賣す

歐洲戰爭實記

（精確なる大判色刷密圖）

露獨方面最近戰局推移地圖

▣有史以來の大激戰…十數項　其他戰報

▲目覺しい獨逸の奮鬪振　タイムス紙

▲捕虜の窮境を逃け出した苦心…ダンスタン

▣獨逸は何故に強きか…（英國）バーカア

▣最近の佛國雜觀　松岡曙村

▲獨逸の封鎖作戰は失敗　米海軍參謀

▲白耳義內の探偵狩り…イリアム

▲何故にワルソウは陷落したか…米陸軍將校

▲獨逸の勝ち得る程度…米海軍

▣六年後の露國の水雷へ　ヴエネゼロス氏

第卅七號　（九月五日發行）　正價金二十錢　郵稅二錢

東京本町　博文館

▼山縣政務總監閣下題辭　朝鮮總督府屬兼京城專修學校講師　江原善槌先生著▲

公文用字例

官公吏員座右之銘　本書は著者が多年在官の經驗を以て專修學校講師として口述したる草稿に基き訂正增補を加へ刊行したるものにして單り正格なる公文用字例を示したるのみに止らず普通文に於ても亦好個の指針たるを疑はず故に本書は官吏會社員學校敎師等の座右必ず一本を具へざる可らざる良書なると同時に文官受驗生に取て最善の參考書たり

五千部限り特價金八拾錢

三六版總クロース製箱入紙數約五百頁

定價金壹圓

送料　內地金八錢　朝鮮滿洲臺灣樺太金十二錢

東京神田　振替口座七四四七

發行所　清水書店

朝鮮京城本町二丁目

特約販賣　大阪屋號支店

電話二〇八六番

脚下悉く黄金

南洋一帶の富源
滯京中の三宅理學博士實査談

風光明媚なる珊瑚礁嶼は我が新占領地

這回日本の占領した獨領南洋諸島の風物は吾人の眼には頗る奇異の感じを與へる、内地に於ても小笠原島といへば從來常夏の國としられて居たが夫れよりも遙かに〳〵南方の氣候に四季の差なき熱帶地の島々であれば滿目の風物一として

■熱帶的ならざるはない、南洋の全群島はマリアナ、カロリン、マアシャルの三つに區分されて居るが、全島謂ゆる富士火山系に連續した火山岩より成り其の周圍は環状を成せる珊瑚礁が宛然防波堤の如く圍繞して陸には又〓〓寸間にも餘る程なる椰子樹が靜かなる海に影を浸して居る、此の椰子樹と珊瑚礁は南洋を訪れる人々にとつては劈頭第一に南洋的氣分を味はせるものであるが船は巧に天然の波止堤たる珊瑚礁の間を通つて此の常夏の樂園に着く、圓い環のやうな

■珊瑚礁の裡は外洋の怒濤澎湃たるにも拘らず小波さへ立てず靜かである、尤も此の珊瑚礁には危險な暗礁も尠くないのでわが水路部に於ては精密なる測量を爲しつゝあつた獨領時代にも附近に浮標を設けてゐたがこれは開戰後一切破壞し去つたやうである、併し海員の談によると此の邊の海水は非常に透明にして且つ深いから其の深淺は深碧、緑色黄色等の色合でよく解るといふ、就中マアシャル群島は全島みな環状の珊瑚礁を以て成り一つの島は殆んど二三十の珊瑚礁が圍繞してゐる、中には又周圍百五十哩に亘る大珊瑚島もあつて内海は宛然一大湖水の如く渺茫たる

■海上は對岸を望み難きものさへあり、又南洋諸島の廣袤はその最大なるものにしてもわが琉球、壹岐對馬位ゐの面積に過ぎざるもその全島の面積は百六十三方里に上るから其の富源も決して尠なくない、先づ西カロリン群島のアンガオル島に往けば全島悉く燐礦より成りわが踏む土は總て内地相場一噸二十餘圓に値する寶である、又南洋名物の椰子の實からは果核を壓搾して油も採れるこれは石鹸材料として年々百萬圓の産額があり又人造バタの原料ともなる、椰子の實は又干してコプラともなるから椰子は全島富源の大宗である、其他乾海鼠、鱶鰭、瑇瑁の鼈甲細工の原料高瀬貝

■眞珠のとれる蝶貝、海綿等も南洋の産物である、陸には土人の食用となるパン樹とて大きな緑色の果實を結び味は栗と甘薯のやうな美味なものを始め臺灣小笠原諸島に産する植物は總て野生のまゝで簇生してゐる、又水中に茂る紅樹林といふのは章魚の脚の如き奇根を出し樹皮よりは單寧が採れるが此の他砂糖、珈琲、コヽア、護謨、チーク等の事業は頗る有望である、海には又恐ろしき鱶鮫が多く船が碇泊するとその周圍に集つて來るが日本人のうちにも二三脚に喰ひつかれた者があつた

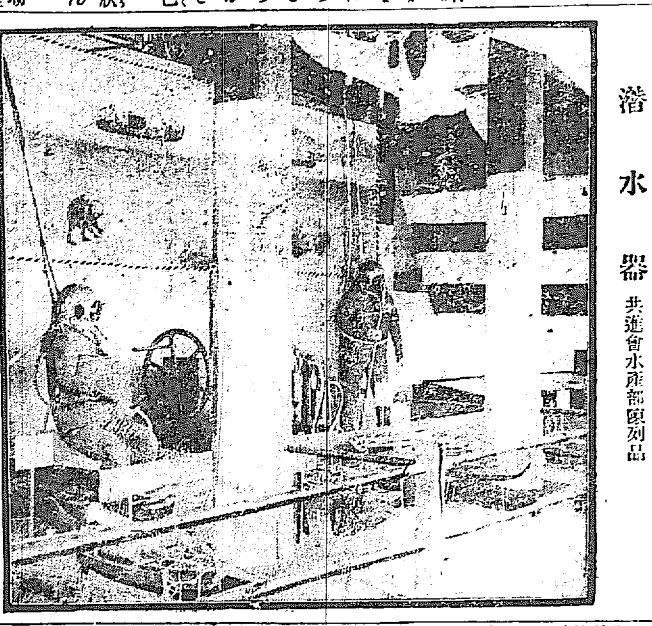
一億萬圓の灰貝、水産部の珍品
漢江下流で獲れた大きな鰉

海國男子と生れた吾輩、潮の香がぷんと流れ込んでは否應無しに足が止る、共進會第一號館西の袖を水産部に一歩踏み込んだ時の嬉しさ、何處へ行つても大流行の彩しい模型の中でも、吾輩には迎日灣漁場の

▽海底に　群を爲せる魚まで見せた、それに越すものが他にあらうか、海上には阿呆鳥も飛んでゐます、漁船の往來の頻繁『此海内は打瀨網禁止區域なり』の建札、とゝは鰊の漁場である、いや此奴は有り難い海苔の採取と製造の實況模型とあるわい、所は全南蝟津江向ふの模型は成南高原の鮭鱒の孵化場をその附近の地理を示したものを二つ並べて之れと背中合せに喧しい寒天製造試驗所の光景『全南長城のそれである模型の東側の棚には居るわ居るわセミクジラ、ナガスクジラ、何々と鯨の行列

▽川船に　蓋をした樣な奴や、大きな丸太を打つ切つた樣なのや、口が下に開いたのと、上に受けた珍妙な態、水を吹いて居らぬのが不思議な程の標本模型何れも一間餘、東洋捕鯨の出品だ、貨物では鯨鬚の一間半もあるもの、脂、鯨細工、肉細工其上方には壯快な捕鯨作業の繪と心杯、却々臭いその臭いのがひどい程吾輩は動けなくなるいゝ氣持になるのだから仕方が無い、乾物で第一眼につくのは五尺餘の太鱈一尾、その突き當り

▽海草や　魚の圖案模樣もて龍宮城よろしくしつらはれた標本室の前につゝ立つとあじかの濃茶色とあざらしの白に黒の斑點、をつとせいと寒帶海獸の剥製の間に漢江で捕つた七尺餘の鰉一體てうざめは裏海の名物で黒龍江の上流でも獲られる、日本では石狩川の名産だが、漢江で斯う大いものを發見せうとは思ひもよらなかつた、左から室内に入ると海の幸の珍物揃ひ、慶北、成鏡沿海に産する一貫六百目巾三尺といふたらばかに、南海の産ではいゝかげ、灰貝の成長順序、牡蠣の發育順序、全く



潛水器　共進會水産部陳列品

▽龍宮城　に住ゐして海の底の諸々の寳と朋羅に爲つた樣な氣持だまだある、廣梁灣鹽田の大模型……別に水産分館は勸政殿の裏廊東側全體を占領してゐる、誰でもが先づ之れは〳〵とばかり近寄つて見るのは江原道で本年四月捕獲したものだ、四十八尺の大鯨の骨を組立てた物、矢張り東洋捕鯨の出品、ながすくぢらと稱するもの、此の廊下に立つて天井裏を見ると廊下の南端から北へ六十間餘の網が張られてゐる、鯨鱗網で口の巾が二間半、大いに驚く外無い、朝鮮西海岸では一體に使用してゐるもので

▽潮流の　激しい海に二艘の漁船で之れをさゝへてゐると魚先生潮と一緒に後から〳〵流込んで再び出ることが出來なくなる、大したものだ、こゝは漁具、漁船の實物や模型や材料を陳列してあるので一見して漁夫の虎の卷が頭の中に收められる趣向、直徑三尺餘の金貨に『壹億圓』と記してその周圍を灰貝で飾つてある、その下に明治四十三年天物暴殄大正元年發見、大正三年三萬圓等と記した表がある、つまり全南肥水の灰貝の産額は壹億圓の見込で今年は三萬圓まで採取額を進めたといふを示したもの

▽網製造　は内鮮の二少女が機に向つて實際の作業を見せてゐる、貝釦の製造も近々製造者が來て觀客の前で製造作業を見せるさうだ、廻廊の柱をそのまゝの帆柱に魚具で船を作つたのも思ひつき、水産分布の大地圖、十二道を十二箇月に分けた十二枚の漁況油繪、釜山潛水器業組合出品の潛水夫作業の大型の油繪と本物の潛水服をつけた等身大の潛水作業の人形等愉快の極みである

遉に婦人は
團體見物が相踵いだ十四日の家庭博覽會

十四日の家庭博は開場と同時に雪崩れこんだ江原道鐵原の觀光團二百六十名の觀覽から始まる此の團體の中には婦人も十四五名居つて老人連が

▽養老室　などを注意して見てゐるのに對して遉かに婦人連は臺所なぞを注意する中にも子供を背負つた一婦人は子供の負ひ方の前に立て善い負ひ方の眞似をして見る子供の養育法がよく出來てゐると感心するものが一番多く日本の家庭は理想的に出來てゐて將來吾々も之れに倣はなくてはならぬとは

▽劉郡守　が一同の感想を代表した樣な話である、黄海道の海州の觀光團五十五名、京畿道燕岐郡の觀光團五十餘名が來たがそれ〳〵いろ〳〵の感想を洩らしてゆく甕頭鳥渡雨があつたが直ぐ晴れて觀覽者は絶えなかつた場内の各館に展覽された

△書畫の　中には珍品佳作も尠なくなく美術好きの人の足を止めて居た各舘の各室に置かれた生花はそれ〳〵名家の手によつて活けられたものであつて、斯道に趣味を有つ人は是非一度見て置く價値がある二號舘には京城酒商組合の出品などが

▽新たに　出來た、運動場には十四日から例のデン〳〵太鼓が出來打球棒が立つた、サクラビヤホール森永キャラメルの寶店、朝鮮堂の喫茶店菓子製法の實習なぞもあり大分盛んである

臺所に永く眼が留まる　其場で背負ひ方の練習

會場は毎日混みますから洋杖、洋傘などの御携帶品は預り、お持にならぬ方が却つて便利です

▲十三日家庭博見物に立寄つた兵庫縣蒲鮮視察團一行は服部知事、瀧川貴族院議員、鹿島市長、村野山人氏などいふいづれも同縣の有力者ばかりだつたが三號舘の朝鮮上流家庭の内房、儀式用の朝鮮料理の仰山なのには一同膽を潰して服部知事の如きは『これは眞物ですか』などゝ手で障つて見る始末▲温突の構造、便利を聞いて老人連の感心したのもあつたが例の一號舘の不思議な鏡の前に二十人近くの一行がドヤ〳〵と進んでくると山高帽子や絹帽が長くなつたり短かくなつたりするので『此れは妙だ』と重なり合て覗き込んでゐたの面白い▲此日來賓休憩所で李完用伯と無佛社長の間に面白い問答があつた▲共進會開會の日、會場を觀て歩く内總督が萃りに私を顧みては陳列品を指し、五年前の米はこんなであつたが今日では此通り五年前の百姓は多く遊惰であつたが今では恁なに働く米も澤山穫れる交通機關も轎や駄馬を田舍には無つたが今では鐵道が出來た▲の中にまで鐵道が出來たので私は田舍の山の中にまで鐵道が出來たのは誠に結構ですが、その便利な事が一般に知られてゐなかつたため今でも矢張り轎や馬で旅行する者があるのを甚だ殘念だと思つてゐましたが今度の共進會でそれが悉く分る樣になつたのは愉快です、と言つたと李完用伯▲成程鐵道が完全に出來て各地方共にその便益を受くるのは地方開發上慶ぶべき事ですが私共のあの方(詩)から言ふと轎に乘つて歩いた方が趣きがあるのですが文明と言ふものは轎の如きものを次第に淘汰して了ひますね』と無佛陳人▲さうです、さうです、本當ですと日本語で如何にも同感といつた風で長く垂れた白髯を捻しながら幾度も幾度も頷いのは權重顯子▲イヤ詩の方から言へば轎もいゝが私は寧ろ驢馬を採りますと伯の贊成に贊成して大笑ひ、それから更に詩の話に花が咲いた▲十二日の趙重應子爵母堂夫人等は令息を連れて來觀、會場混雜のためその日は食事の所丈觀て歸つたがその晩から子供自身で善い食事の仕方の眞似をするのには驚きましたとは子爵夫人の話

宏濟艦の一般觀覽を許す

目下仁川港外碇泊中の近海警備弘濟艦を港内に入港せしめ九月二十日午後より一般觀覽を許す事となりたり

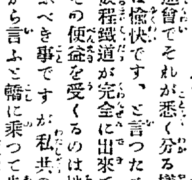
試驗船轉覆す
内地人三名生死不明

過日來出漁中なりし平南漁業試驗船は鎭南浦沖にて九日正午頃暴風雨の爲め轉覆し乘組員四名中鮮人漁夫一名を除き内地人敎師一名漁夫二名は遂に行衞不明となれり遭難の報に接したる鎭南浦警察署にては時を移さずランチを艤裝し水産組合巡邏船と共に現場に急航極力搜索せしも十二日午後迄は未だ發見せられず已むなくランチは一先づ船體を曳き尚ほ附近に散亂せし漁具を收めて鎭南浦に引返せり當日は北西の強風吹き荒み船體木の葉の如く飜弄され奈何とも手のつけ樣なく遂に此の慘禍を見るに至りたる次第なりと

虎兒を捕獲す

咸南長津郡新西面地方は昨今猛獸出沒し田畑の被害甚しきより所轄憲兵隊にては日夜之れが驅除に從事中去月二十六日咸興との境界なる松林の土穴中に於て生後未だ間も無き虎兒一頭を發見し難無く之れを生擒りて挈へ歸り目下ミルクにて飼養中なるが里民は若し其虎兒を養ひ置く時は親の猛虎は必ず兒の恩愛に牽かされて襲來するやも測られざれば速かに撲殺すべしと言ひ居れりと（元山）

余興場のぞき　妓生の踊
靜的な趣きが頗ぶる面白い



協贊會餘興の中で何は見なくとも演藝館丈は是非見ねば誹するに足らぬと云はれ共進會を一目丈通して演藝館に入つて見た、成る程中村工學士自慢の建築丈あつて目を奪はるゝ許り舞臺の模樣から色の配合から全然氣に入つて了まつた僕の見たのは廣橋組合妓生の長生寶延の舞とか何とか云ふ悠長な踊であつた、兩花道から美々しく裝飾つた妓生が七人宛靜々と音樂の音に調子を合せて心持ち軀を搖かせて舞臺に練つて行く處は又と見られぬものだ確かに見た丈で命が延びる樣な氣分になる朝鮮の舞は總じて變化に乏しいの、悠長過ぎるのとか何んの彼のと評をするが彼れで却々に一寸やそつとでは踊れぬものださうだ、花柳流の踊の家元花柳德三郎君も云つた『朝鮮の舞は幼稚ではあるが又捨て難い特徴もあり長所もある、日本の舞踊に較べて一概にその優劣を判定する譯には行きませぬ、手足の差引から身體の扱ひも踊の故實に適つて居て理屈には未だ居つて彼の樣に見えても却々無意味に動いて居るのではありません』と聞いて見れば成程兩手を擧げて靜かに搖る工合が一律に變化のない所に又何んとも云へぬ味がある朝鮮に多く居る人でも這麼に揃つた踊りは餘り見た事がなからう、今日は一日こゝに居て八釜敷い『ついのよるべと御代の榮』を見て行かう

十四日夜の演藝館

協贊會演藝館にては十四日夜より兩花道に雪洞を灯して更に一段の美しさを添ふ可く尚同夜より活動寫眞の出物は評判の間一髪にて幕間には妓生の日本歌曲梅にも春私が國さ博多節ありと

京城南大門通三丁目（鮮銀前賣店横入る）
入院隨意
胃腸病院
電話一六五九番
院主 佐々木杏造

大典と基督教

めて莊嚴に努め清新なる心掛けを以て……に於て婦人矯風會長矢島楫子、救世……

九月十六日九點　八月八日庚戌

連絡船上陸客　十三日午前

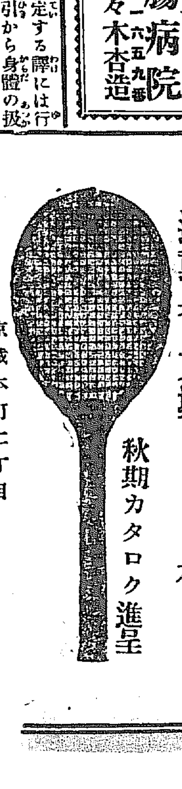
天氣　曇り後晴れ　九月十五日

家庭博覽會遊戲場カチ〳〵山のほとり
お待ち兼ねのでんぐ〳〵太鼓が出來ました

地方支部長募集
本會は地方支部長を採用す商人にて有利の事業なり返信料三錢添へ至急申込まるべし直に規定書を送る
東京市芝區愛宕町二丁目十四番地
御卽位大典紀念會

御卽位式■■記念洋服
豫約募集
フロックスート 金貳拾八圓 金參拾參圓
ドレススート 金參拾八圓 金四拾五圓
期日十一月五日迄
枚數壹千着限り
右破格最特價に付寶切にならざる内一刻も早く豫約御註文願度候、定數に滿ちたる時は期日前と雖も乍遺憾中止仕候
地方は郵券十錢添へ御申越次第見本進呈
東京市麴町區山元町二丁目角
關根商會高等洋服店
電話番町一〇四一・四六五六・振替口座東京一五〇九

運動具は京城レノサキに有り
秋期カタロク進呈
京城本町二丁目
篠崎運動具店



四大特色
▲位置高燥
▲風景絶佳
▲家具新調
▲佳遇懇切
三階には百疊敷の大廣間ありて團體の御客樣には至極便利に候殊に御宴會御集會等には御便利に御貸與仕候
▲御來閣の御方は旭町一丁目白石組車帳場にて御案内又は後押仕候間御遠慮なく御命じ被下度候
京城協贊會御指定旅館
京城旭町壹丁目
万千閣
電話二三九〇番

京城協贊會發行
始政五年記念
朝鮮物産共進會記念繪葉書
三枚一組石版刷コロタイプ版　定價金十二錢　郵税金二錢

朝鮮新聞社發行
始政五年記念繪葉書
三枚一組コロタイプ版ブック入頗美　定價金十五錢　郵税金二錢
元賣捌所　京城本町一丁目　日韓書房　電話一四五五番　振替一一五五番

運動と記念事業を行ふ由而して先づ[illegible]大典に奉祝するに當りては國民は誠し此の主旨を人民に周知せしむるた[illegible]意識心を以て聖壽の萬歲を奉讃し極め十四日午後七時より京城青年會館[illegible]に於て[illegible]會を開き折柄參列のため入洛せる英米佛露各國大使其他を招待すと

朝鮮滿洲台湾 鉄道大競走

南は湖南北は滿洲

南行別府選手

▲木浦の景氣

世界第一の多島海を前に控へ後には綿と米の饒產地を負へる勢安半島突角の木浦港は儒達山麓に固つた氣持の好い明るい街だ京元線が元山の實業界に多くの刺戟を與へた樣に芦嶺東濱の關所を除いた湖南線全通後の狀勢は木浦商圈內に他の勢力の侵入を安からしめ貿易上の紛糾を餘儀なくせしめて居る最近の商況は奥地は雜穀、繭の出廻り多きと特產棉花の集散期漸く近いた爲め不景氣は不景氣だが勢氣の動き初めた不景氣だ十三日夜十時木浦に著く迄同地の元老木村氏等と同車し『筆の人より算盤の人の方が收入はよい』などお得意の金儲談を聞かされた(十四日午前湖南線松汀里驛發電)

神崎北行選手

▲國境を越ゆ

新安州の證明を終り須臾にして滿鮮の國境を越し安東縣に著く、新安州に迎へられたる滿洲同業者諸君は『安東に全滿の同業者が君の來るを待つ』と告ぐ、安東に著けば白鴇を擁す南部安東新報社長を始め同加納理事、川俣編輯長、相浦、戸田兩記者、平山滿日支局、佐藤大東社支局、小河原、小川、平河鴨江日報の諸氏(順序不同)ずらりとフォームに立ち迎へられた此の意外の出迎なれば其れ丈け感謝身に滲む心地す直に待合に案內されて麥酒の杯を上げられ一路平安を祈らる 謝すべき言葉なし(十三日午後安東縣發電)

▲次は露都へも

目が覺めると汽車は朝曦爛々たる大平原の眞つ唯中を疾走して居る、高粱の秋は今方に酣に眼の及ぶ限り紺緋色の穗波を打つ、石橋子邊りらしい、純冬の要意をして居るのに身に滲むる寒さは殊更らに兩袖をそゝる『まあ大變で御坐いますわね、朝鮮と滿洲と……アラ臺灣にも行らつしやるので御坐いますつて、でも何と云ふ男らしい壯快なことで御坐いませう、きつとお勝下さいませな、』遂にペトログラードから祈念を凝して必勝を期しますわ此の次には西比利亞線もお入れなすつてモスカウ、ペトログラードにも行らつしやることに遊ばせな、勝利の花束でもお送りしますわ』すらりとした身體に黒の旅行著をつけ、頭髮を眞中から分けた、楚々たる姿の時平駐露大使館書記官夫人は流石場なれた愛嬌をまく、之から露都に行くのだと云ふ健氣な心榮には鮮鐵できつついたりする身が恥かしい、高粱の畑の中に立てられた撫安驛、こゝで下車し互に一路平安を祝し合ふ內列車は北に向つて動き出す、煙が限りなき平原と的もなく迷つて居る內に汽車の影は地平線下に消え失せた。(十四日午前安東線撫安驛發電)

家庭博後園休憩所の一部

●鐵路荷動活潑

昨年に比し十六割激增

連帶輸入の漸增と移出荷物の激增とに依つて昨今の平壤驛は稀有の活氣を示せり、連帶輸送貨物の逐日增加せることは月々の貿易統計の指示する處にして本紙亦屢報を經たり、移出貨物が異常の盛況を呈せるは八月中の發送貨物噸數が二萬六百七十二噸に上り之れを昨年同期の七千七百十一噸に比すれば實に十六割强の激增を告げたるに徵して明白也其の主たる原因は無煙炭の輸送日一日と活況を加へ遂に昨年に比して約十八割を增加せると寺洞の炭坑に使用する坑木の中繼多かりし以外に牛皮の對露軍器大注文に刺戟されて永登浦に仕向けらるゝもの巨額に上り從て牛骨の移出頗る好調にて今は稍々衰へたるも本年の產繭移出亦異例の上景氣を現はし石油、煙草、海藻(元山釜山方面より平壤商人の手を經由して奥地方に仕向けらるゝ和布、昆布等)の荷動き極めて活潑なりしに因る因に八月中の貨車收入は約二萬四千六百圓にして昨年に比較すれば約一萬八百圓程の增收を得たりと

●咸南の生產繭

咸鏡南道に於ける養蠶業は當局者の勸誘指導宜しきを得たると斯業者の努力奮勵と相俟つて著々効果を顯はしつゝあるが本年春蠶は生產者が繭の取引開始後一般に價格低廉となりし爲を以て一時悲觀に陷りしも共同販賣の實行に依り豫想外の收益を得るに至れり、今取引先と販賣量とを聞くに龍山四十石一千六十四圓、元山九石二百十三圓、釜山九十六石三千六十圓、京城九十二石二千九百十三圓、永興四十五石一千百三十二圓、咸興六十五石一千九百二圓、高原二十七石七百七十七圓、洪原二石五十圓、北靑十三石三百五十圓、端川二十九石四百五十五圓合計四百十八石一萬一千九百十八圓にして最高石四十圓最低十二圓平均二十九圓なりと

●製糖社と協會

朝鮮精糖會社設立の機運漸く熟し斯界のオーソリチーたる齋藤儒定氏及堀宗一氏と相談の上會社設立に關し寺內總督に建白し尙ほ內地資本家數百名へ檄を飛ばして出資を勸誘せるなど內地に於て大に進捗せる模樣なるを以つて兼て該社設立に伴ふ平壤の發展策に就き研究を重ねつゝありし平壤實業協會にては本問題に關し近く協議會を開く筈

●總會々場決定

來る十月七日開催さるべき日本赤十字社愛國婦人會支部總會の會場は平壤高等普通學校々舍を以つて之れに充つることに決定せり

●記者團歡迎準備 委員の打合會

釜山新聞記者團は十三日午後五時より商業會議所樓上に集會し全國新聞記者團歡迎に關し打合せ會を開き記者團著當日はランチを以て港外に出迎へ棧橋著直ちに記者團の案內にて漁港及び長手町通りを視察し商業會議所樓上に於て茶菓の饗應後東萊溫泉の園遊會に赴く筈なるが猶釜山記者團は芥川、高木、都甲、高山、茅原、勝村の交涉委員をして歡迎に關する諸案を穣し十四日午前府廳に於て追間協贊會長、大池副會長、若松顧問と會見したり

●赤愛加入者激增

第二回赤愛支部總會は既報來る十月七日平壤に於て開催の筈なるが平壤支部に就て聞く處に依れば四十三年委員部より引繼たる當時の會員數は赤愛兩會員を合して僅か千名內外なりしが目下赤十字社員約二千人愛婦會員八百人に及び尙本一月鎮南浦の委員部を平壤支部に引繼たると新たに地方委員を設置したるを以て急激に會員を增し來り赤十字社員三千二百名愛婦會員千七百餘名に達し益々增員の兆ありと

●釜山記者團發會式

豫ねて設立の計畫ありし釜山新聞記者團は愈々十三日創立の決議を爲し十五日午後七時より釜山停車場ホテルに於て發會式を擧行する事となりたり

●關門視察團渡鮮

關門日々新聞社主催朝鮮物產共進會視察團は十四日午前九時釜山著歡迎會等あり釜山二泊の上京城に向ふ筈

商況

東京株式特電

十四日 前場寄付 大引

日本郵船 九〇・七〇 九一・〇〇
向島紡績 一〇八・五〇 一〇〇・〇〇
上新株 九四・三〇 九四・〇〇
木川渉 [illegible]
東株第一 一五二・四〇 一五二・四〇
東株第二 一二六・九〇 一二六・九〇
東新第三 一二六・〇〇 一二七・〇〇

東京期米特電

十四日前場 十一月限 寄 節 引
(数値 [illegible])

債券現物特電

十四日前場 前日との比較 [illegible]

深川在米特電

[illegible]

東京公債直取引電

十四日 前日との比較 [illegible]

大阪三品特電

十四日前場 寄付 大引
九月限 一〇〇・八〇 一〇〇・八〇
十月限 一〇〇・九〇 一〇〇・九〇
十一月限 一一三・〇〇 一一三・〇〇
一月限 一一五・一〇 一一五・二〇
二月限 一一一・〇〇 一一一・〇〇

大阪株式特電

十四日 前場寄付 [illegible]

大阪期米特電

[illegible]

下關期米特電

十四日前場(順季寄め) [illegible]

●雜報

[illegible]

●大阪の莫大小界

大阪の莫大小界は近來一般に不振の狀態を持續しつゝ今日に至り折柄の露國政府より軍需品として約二十萬組の大注文一時に到來せしことにて此れが元受けをなしたる蘭門商會は更に之れを各莫大小の製造工場に分割して其下受けをなさしむる新昨今の景氣の中に出れたが此折柄には多少の製造品を手付し相場は昨今に内質共に底値に落手したる向もあり最向の形勢これ[illegible]により以上の大口注文もありといひ面に於ては前記以外に更に一層の發展を見る[illegible]とれつゝある折柄旁昨年來の不振狀態を

●鷄卵漸次昂騰

食料品は共進會の開會以來漸次荷動きの活況を示しつゝあるも開期間中に於ては既に相當手持の準備を爲し居れる事とて目下の所荷相當調和を告げ居れるも未だ共進會の需要を以つて相場を動かす迄に至らず單に手堅き氣配を示しつゝありさいふに過ぎざるも鷄卵は各種割烹に用途腰

●需要頗る旺盛

多からざるあり此數日來漸次價格騰貴し目下の取引は千個十七圓五十錢にて約三圓高を示し尙小締り模樣にあり

●松茸愈々出盛る

頃日來の雨天に出廻り激減せしと買氣の良好に人氣を引立て一時相場を引上げしが昨今漸次出廻り順調に復せし此處元山物は過般の仕切安値の發表となれるが附近物の出荷は一日平均三十貫目內外を示し目下二十一二錢飛切物は平均四圓二十錢見當にて品質殊に優良な出物は四圓七八十錢の出來なる屆り至極微々たるものにて一部料理屋向さして一般の需要に行商ら

●今や漸く出盛の觀

●小賣値段

四十錢よりさして百目七八十錢の間なり

下關相場

○朝鮮米は好氣配 其後白米二百五十匁の趨著のみなるさ產地よりも三十錢方の高値を唱へたる折各所の氣張り居る爲め人氣好況を極め一等白米十三圓三十錢二等白米十三圓にて弗々賣行きつゝあり○小麥は保合 其後肥後產百四十俵持筋の氣張り居る爲め市況弛まず肥後產の上品五六十俵許りは九圓三十錢乃至四十錢に出來したり○大小豆依然同事 本品は米價高に連れ依然安き實物あらずと雖も何分小口の實行に過ずして氣勢昂らず○大小豆の現況 小豆依然小口の賣行に過ぎずして市況不引立なり尤も大豆は兎角實物週の折柄產地も安かく殊に大連先物の如きは三圓八十五錢乃至九十錢處の唱へなりし

各地商況

○釜山(十三日の穀物)▲正米(二十錢安)大阪定期米も各地の作物風水害も差したることなかるべし

●洋釘更に値上げ

洋釘は當時從五十錢の値上をなしたる一昭より當時尙一部强氣筋のみの實行に過ぎざりしが其後各店共に大勢に從ひ之に倣ひ來り今日に於ては値上げは殆ど一般に互り居れるならず之が當時の本錢の高値に比すれば尙前回の上値[illegible]强ひて

更に二十錢

方値上げ斷行するに至りしが昨今の反動として今日の如く格安せり

愈々一圓高

●平板小弛む

平板は內地不の格安に歴さ尙先一部手持筋の格安賣に歴さ

二錢方引弛

近十圓三十二錢コメット星印一圓二十八錢廿八番一圓八十五錢二十六番二圓五錢を唱ふるに至れり

●鉛價昂騰す

歐洲亂の局に於ける鑛工の懸念は近頃產地に於ける鑛工の懸念をなし英國の軍艦向き買上げに代る物の入電は二十三磅十五志なりと而かも期近實物の拂底せる入らず輸入約定困難なる情勢を示せり大阪鉛相場は一面に環用品の需要期に向り且つ露國向き出廻あるべしとの際想行はれ居る折柄更に一層人氣を引立て目下十五圓十錢の高値を唱へ一兩日前の相場より一圓方の昂騰を示せりと

早晩纏まれ買上

一變界は[illegible]して今や斯界は認けて愁眉を開くに至るの勢ありと

京城正米

休日前に於ける期・市場の秘密相場に入り不氣味なる刺戟し休日明けに亘りて約三十錢方を引締めたる正米は其後之が反動と厄日無難に期米の瓦落な頹落となり出せしに拘はらず正米は此處單に氣安といふのみにて一響相場を引弛めず人氣は弱合みの保持合ひ風情なり

▲新大豆 各產地浸水せし爲め上品出廻り少なく又買人は上品買望みの姿にて何れも出廻り待ちの模樣にて氣配好況を呈せり次品は弗々出廻りある樣子にて氣配は保合なり

南大門の廻米

沃川玄米 二三叺全義白米 一八叺
沃川白米 一七叺餅店白米 一三叺
沃川小麥 四三叺水原白米 一六叺
沃川胡麻 八叺牙山白米 一六叺

仁川現物市場

△籾入弗々あり
△正米定期米に連れ附口安くも買廻せず氣配一二十錢安見當にて弗々商談行はれ居れり

生魚市場

頃日來荷薄なりし生魚は其後天候の恢復に連れて漸く產地の水揚げを增加せし一つは各荷主が共進會開催の需要を見越し何れも當地を望むで送荷するの振合ひあるより自然著荷を增加し來れり本日の主なる著荷は仁川鯛、海老、元山鰤、馬山方面の鰯此白鰻、鰤、蛸、鰯、鮎等にして相場は共進會の開會前日を高値として漸次逐日漸落の步調なり本日の出來値は仁川鯛十貫目二十二三圓、元山鯛十六七圓見當にして其他平均の出來値は左の如し

タイ二二、サワラ一三、スズキ一〇、ヒラス九、ヤツ一三、ヘモ九、アジ一三、イセエビ二二、クルマエビ三二、モエビ二五、ニベ八、カツサ一四、サヨリ一五、コノシロ八、サゴシ一二、アワビ一四、アユ一六、タナウチ四、シヤケ一〇、ツンシビ一二

仁川期米

▲十四日前場 ▲大阪寄十錢の安に十四日前場十九錢と昨止より十二錢安の二圓七十九錢と昨止より十二錢安の入電當地出來不申中九圓二十五錢と先九圓十六錢と九錢安に寄付五錢と辷りたるも利喰に新規に買物多く忽ち二十四錢さ崩れたる折柄大阪五節六返したるも此處物頭はれ

十七錢再び十五錢と崩れたるも安値り

利喰急買物多

物順するや々々二十四錢と跳れ返し目先利喰に支へ二十四錢と押して散會

▲前場 中限九圓二十五錢先限九圓二十錢出來高三百廿十石△先限九圓二十五錢出來高三百廿十石

(前場出來 [illegible])

市場零聞

▲前場の商戰

(商戰明細 [illegible])

▲場面は强硬

昨後場大阪の下寄付十二圓八十錢は十三圓〇三錢の誤報なりしさかにて今前大阪の下寄を受けて九圓十六錢と下寄に始まり五錢と一歩弛みたるも利戰に新規の買物多く直ちに二十四錢さ跳れ返し

大阪跡尙安しと移

折柄㊀利其他より買物顯はれたるも今㊃より買向ひ再び十五錢と崩れて二十四錢と跳れ返し結局二十錢丁度と散會したが

場面は存外强硬

の此行を示した是等の者安値に利食ぎと旃頃動の買物多きに依るならんと思ねれる

仁川米豆取引所

十四日の十一月限

前場	
寄附	九圓二十六錢
止め	九圓二十四錢
高値	九圓二十五錢
安値	九圓二十四錢
出來高	二萬千百五十石

平均値段	
一節	九圓二十九錢
二節	九圓二十八錢
三節	九圓二十六錢
四節	九圓十九錢
五節	九圓二十二錢

	買	賣	取組高
九月限			三千百五十石
十月限			九千三百五十石
十一月限			二萬三千五十石

十三日後場出來値 前日比較

	出來値	比較
寄附	九、三三	一七安
止め	九、二五	五安
高値	九、三三	九安
安値	九、二二	七安

青物市場

共進會開期中の大需要を見越せし物類も此處農家は漸く思惑外れの有りて一時持久の念强かりしも例の弗々手放し來らん風情にて價格の騰貴を期待せし近根長芋勞の如き却つて反對に暴落を見るに至り其他の物類一般に氣弱き成行きなり

マツタケ 四〇〇	ミツバ 一五
ウド 四〇〇	カイワリ 一五
ワケギ 二五	ハセリ 一〇
ミヨガ 一〇	サラゲ 一二〇
ハジカミ 一〇〇	クワイ 一五〇
ハナマル 一五	ユリチ 三五〇
レンコン 一〇〇	ハスイモ 二〇〇
フキ 二五	ホザシ 二五
ユズ 二五	ユダマメ 三五
アチト 一五〇	トノイモ 八五
シンキク 一五〇	トマト 一五
ホウレンソウ 二五〇	セリ 一五
メキク 一五〇	小キリナス 五五
キノメ 二五〇	ワサビ 五五
コイモ 二五〇	フロマメ 五〇
ダイコン 二五〇	インギマメ 四〇
ゴボウ 二五〇	マビキ 二〇
ナスビ 三〇〇	ナツパ 二〇
キウリ 三〇〇	チギ 二〇
カブ 五〇〇	チサ 一〇
タマナ 四〇〇	フダンソ 一〇
タマチギ 五〇〇	シヨガ 八〇
ニンジン 二五〇	サヽギ 二〇
ナンキン 一五	シヤクシナ 一五
アカメイモ 八〇	ヌカナ 二〇
チガイモ 一〇〇	ヘレイ 一五
ツクイモ 一五〇	

小賣白米

一等白米 十三錢
次白米 十二錢五厘

白米標準値

十二圓六十錢

京城學校組合公文

京城學校組合告示第二六號
大正三年度京城學校組合歲入出決算左記ノ通リ組合會ノ認定ヲ經タリ
大正四年九月十二日
京城學校組合管理者 朝鮮總督府京城府尹 金谷充
大正三年度京城學校組合歲入出決算
歲入
一金二十一萬千九百八十七圓 豫算額
一金十九萬七千四百五十二圓四十八錢 決算額
一金五萬五千四百二十一圓 經常部豫算額
一金五萬四千四百七圓二十錢 經常部決算額
一金十八萬七千三百三十圓 臨時部豫算額
一金十六萬二千六百五十一圓 臨時部決算額
歲出
豫算額合計金二十六萬七千八百八十九錢
決算額合計金二十五萬千八百六十四圓
一金八萬百五圓 經常部豫算額
一金七萬八千二百十八圓 經常部決算額
豫算額合計金二十六萬七千四百十八圓
決算額合計金 臨時部豫算額
廿四萬二千八百七十六圓廿五錢五厘 臨時部決算額
歲入出決算差引殘金七千九百八十二圓四十二錢五厘(翌年度ヘ繰越)
大正三年度京城學校組合歲入出決算
歲入
第一款 經常部
第一項 金四萬四千九百九十圓四錢 授業料
第二項 金十四萬四千九百九十圓四錢 使用料及手數料
第二款 金四萬二千百八十二圓九十五錢 學校授業料
第一項 金三萬九千六百六十三圓六十錢 幼稚園保育料
第二項 金九百七十一圓 督促手數料
第三項 金千五百四十八圓三十五錢 戶別割
第三款 財產ヨリ生ズル收入
第一項 金九百四十圓六十二錢 基本財產收入
第二項 金百二十七圓 預金利子
第三項 金二百五十七圓 積立金利子
第四款 雜收入
第一項 金千四百三十圓五十九錢 貸地料
第二項 金百六十八圓七十九錢 貸家料
第三項 金二百七十九圓 物品賣却代
第四項 四百二十三圓八十二錢 雜入
經常部計 金六十一圓二十九萬七千四百五錢
臨時部
第一款 金五百七十八圓五十錢 元居留民團ヨリ引繼金
第一項 金四百二十八圓五十錢 元居留民團未收入金
第二項 元居留民團ヨリ引繼金 五百圓
第二款 財產賣却代
第一項 金六千七百七十一圓二十錢 土地賣却代
第二項 金四千八百七十三圓二十錢 家屋賣却代
第三款 補助金
第一項 金五千二百六十七圓五十錢 補助金
第四款 寄附金
第一項 金五千九百十錢 寄附金
臨時部計 金五萬四千四百七圓二十錢
歲入合計 金二十五萬千八百六十四圓
歲出
第一款 經常部
第一項 事務所費 金三千五百七十五圓九十三錢
第二項 給料 金七千六百四十五圓
第三項 旅費 金六十圓四十一錢
第四項 宿舍料 金九百六十圓六十四錢
第五項 金八百七十圓七十五錢
第六項 備給 金三百四十八圓
第七項 需用費 金三千五百三十八圓三十錢
第八項 金二千三百四十八圓三十錢
修繕費 金百九十一圓五十一錢(以下朝刊に續く)

●天候晴模樣

頃日來の雨天にて大阪の大暴落の情勢を持續し居れる天候昨夜快晴模樣と變じたるも今朝來尙雲往來して曇天を持續し居れるか何れ晴れ來るならんとの來果如何

▲稍縮少し來る

[illegible]の如き事情にて敢て買入れ旺盛と言ふには非ざるも究込買來る手口の如きも可成筋の押目は利喰急の氣配なるより一時三圓九十錢內外迄盛り返したる大阪さの動くは前場に於て

三圓四五十錢と縮少

したる大阪の大騷動を齎らし來る大阪も當地は幽頃の關係さ一般の人氣は至極冷靜に看過し居るより大勢の如き大變團なく爲に朝の伸縮變化にて或る時は擴大し或る時は縮少し居れり

▲期米目先觀

大勢の大暴落の情勢を持續せる大阪入電は昨の大暴落の情勢ありたる受けて今前場も引續き安報ありたるお當地は前項の如く存外强硬の成行を示し此の通一戾しあるならんと一般に豫期し居る者の如き觀ありと一面

正米界

經驗の際は頃日の大割高なるを受けても市場當物商の折柄當貨物の大暴落を見ざりしが昨今の大暴落の大勢に維持し居れる事なき爲め附口安く關西氣配も安唱へなるも買廻せず依然小變動に止まり居れるより自然

正米より見て定期の割安を感ずるに至り押目は利喰に買物を見るに至るべく此上大阪の大暴落なき限り大したる押目は望まれぬやに見へるが果して如何

商業登記公告

東洋生命保險株式會社取締役佐々木清八大正四年九月五日其住所ヲ東京府荏原郡大井町二千三百二十七番地に移轉シタリ
株式會社京城葬儀社取締役山下新太郎大正四年四月二十日其ノ名ヲ半ト變更シタリ
右大正四年九月十一日登記
京城地方法院

物たべ歡迎ぎんなし
折詰 辨當
共進會開期中大勉强
仁川水族館正門前
御料理 松乃家
(電話六二九番)
會席

國際多數の注文願々有之候に付可成前以て御申込被下度候

演藝案內

壽町 壽館
電一〇五〇
本月十五日より高賓御贔屓の愛を浄瑠璃界の女傑娘義太夫竹本東京歸大人氣の(十二名)竹本小燕竹本梅香竹本燕之助共に御來館の程只管奉願上候也

御成町 御成座
電話一九一
第四回替藝題 瓦全庵氏作「新乳姉妹」全十場
喜劇「さつま藝者」全二場
右は大車輪大活劇にて演じます

明治町 浪花館
電話二六〇 浪界の西の横綱
京山若丸一行來る
▲晴雨に不拘當館は必ず午後七時に開演仕候
▲當る二十日より開演仕候

東京新派劇 大江義雄一行
山ノ手 佐久良座
電話六四八番
▲九月十三日藝題
新派劇「七化お新」
●場割 第一田端驛附近の街路、第二同驛內二階待合室、第三吉原中米樓附近の部屋、第四同樓裏口外の庭、第五正木貞一の寓家、第六淺草龍泉寺荷神社の境內、第七玉森稻荷の附近、第八同稻荷の境內、第九向島小梅の渡し場、第十住原大勉强十錢均一
●晴雨休みなし毎日午後六時開幕

黃金町四丁目 黃金館
電話二六三七
活動寫眞株式會社直營三千代番
九月十三日より全部差替
○實寫「日本と馬来」「三國傳來の猫」○新劇「滑稽の主シャツの話」○實寫○舊劇「三國傳來の猫」全四卷、大久保彥左衛門、流球、日本と馬來、柳生飛彈守、左楢…
○泰西大活劇「呪の水車」全三卷
其の死は大罪…

本町有樂館へ移轉の爲休館仕候
黃金町 世界館
電一四三四番

櫻井町 大正館
電話八七三
九月十日より實寫全部差換
▲實寫歐米近事畫報▲泰西喜劇二卷續き▲悲劇「最長尺」▲泰西美談「五番」▲佛國パテー會社傑作天然色寫眞「活劇」誤解「全五千尺」▲悲劇「黑人の犧牲」▲舊劇「加賀騷動」▲旗本と火消の衝突おなじみ目玉の松之助火中の大活劇は天下一品と自慢す

報 豫 天氣 京城測候所 十四日午後二時 [illegible]

[illegible]

汽車
[illegible]

大岡政談 越後傳吉

第百五十三席

桃川如燕口演
浪上義三郎速記

新之助が　新『さうかそれは困つたな、歩行つけないから尤もだ、駕籠があれば宜いが生憎なし、マア我慢してもう少し歩行いて呉れ、もう幸手へ大した事はないから　きア『ハイ我慢すれば歩行ない事はございません』と二人が道を急いでやつて來る、其時分の事でございますから人通りもない淋しい所、幸手宿の手前三本松といふ所へ掛かつて來ると　○『モシ〳〵』と後ろから聲を掛ける、ヒヨイと振返るとボロ〳〵した死切袢纏の帶を締めて、髯茫々として頭は髮を振つて突込にして、眉間の所に恐しい疵がありげな一癖ある厭な奴　○『旦那幸手まで歸り駕籠ですがお乘んなすつてお呉んなさる譯には行きませんか　新『何だ、貴樣は駕籠屋か　○『へエさやうでございます　新『駕籠が無いではないか　○『乘つてお呉んなさりやア後ろの方に駕籠があるから持つて參ります　新『可怪しな駕籠屋があるもんだな　○『チツとも可笑しい事はござんせん、道中の駕籠屋は皆なこんなんで、お女中樣がお見受申せば足を痛めてお在でなさる御樣子だ、其お女中をお乘せなすつてお呉んなさい、姐さん乘つてお呉んなせい　き『アレいけないよ傍へ寄つては　○『ナニ　き『傍へ寄つて袖を引張つてはいけないよ、胼な駕籠屋だね　○『何をいやアがるんでエ、駕籠へ乘る事が出來なけりやア酒代を寄越せ　新『コレ怪しからん奴だ乘らない駕籠に酒代を出す奴があるか、○『喧ましい何を吐かしやアがる、ヤイ前等二疋、汝等のやうな驅六玉に此原へ來て譯言を吐いて通られた日にやア、己達が此街道で飯にならねエ、酒代を呉れ、酒代を呉れる事が出來なけりやアたゞア通さねえ　新『ナニ汝……　○『何てエ此野郎、生意氣なことをしやアがるな、一本か半分、クツ差しやアがつて居るもんだから、オツウ張臂をしやアがつて今己の方で貰ふ樣にして貰ふからさう思へ、ヤイ〳〵皆な來い〳〵』といふとバラ〳〵と何處に居たか大勢出て來てグルリと周圍を取卷いた　き『アレー』といふおきみを背後へ圍つて　新『手向ひすると爲にならぬぞ、○『ヤイ此青二才何をしやアがる、それツ疊んで了へ』といふと息杖を取つて打つて掛る、新之助は道樂こそしたが若年の折から文武兩道に達し、直眞影流の達人長沼四郎左衛門先生仕込みの腕前、一刀スラリと引き拔いたが斬つては面倒だから刀背打ちを喰はせる　○『アッ斬られた　△『死んで了つた、己の首がねエ　○『クッ付いて居るぢやアねエか、△『之れは己のぢやアねエ、人の[illegible]だ』そんな奴があるものか　○『恐しい骨ツぽい野郎だ、野郎の方は叶はねへから阿魔ア引提つて了へ　×『合點だ　き『アレー』といふのを　○『ヤツサ〳〵　き『アンーアレー』といふ所におきみの姿が段々遠くなる　新『己れやつては』と追駈けんとする所へ八方からして打つて掛る右と左に[illegible]つて居りましたが其中におきみの姿は見えず、所は幸手の三本松原近く通行の者もございません、處へ向ふからやつて參りましたのは年頃二十二三になる色の淺黑い鼻筋の通つた立派な男、結城の袷に博多の帶を締めて長い刀を一本打込んで居る、若い一人の男は二十三四の若い男　若『親分　○『何だ　若『何だか知らねエが女が金切聲で、助けて呉れーッていふやうな聲がするぢやアございませんか　○『さうよなア、こりやア若エ者が又大勢で寄つて集つて女でも捉めへて惡戯をするんぢやアねエか、行つて見てやれ　若『宜うございます』足拵ひ嚴重に長脇差を打込んで、威勢の好い男が、トツ〳〵トツと駈けて來た所へヤツサ〳〵と擔いで來るから　若『ヤイ汝等ア飛んでもねエ事をしやアがる、此街道の荒稼ぎだな　○『ナニ、何を吐かしやアがる、人の仕事の邪魔をするな　若『喧ましいやい、ヂタバタすると叩切つて了ふぞ』とギラリと一刀を引ッこ拔いた　○『危ねエ〳〵』といふとおきみを拋り出した　おきみは氣絶して居る　若『汝等は飛んでもねエ事をしやアがる、此處等邊りで汝等に巫山戯た事をされちやア己達の顔が立たねエ』と長脇差を振廻した。

五百年來家傳製法
一家の經濟は御臺所にあり安くて滋養になるのは
司味噌
限り升・電話にて御注文被下候はゞ直ぐ御届致し升
京城大平通二丁目
遠藤商店　電話九八二番

新柄流行
縞セル
壹反タツタ壹圓五拾錢

東京市日本橋區本石町一丁目呉服問屋關谷商店にては今回柄合嶄新品質優良一見どうしても舶來本毛十圓以上の品に負けぬ縞セルの投賣を始めたが而も勿驚一反タツタ一圓五十錢特別製一反タツタ二圓五十錢と云ふ丸で只の樣な法外馬鹿値に投出し且つ賣出し記念として實用と優良とを兼ねたる西京西陣製の女帶地をセル一反の注文毎に一筋宛の無代進呈をなすと云ふ實に飛び放れたる珠算を捨てた大英斷は流石に用途の廣き流行セル地の事にて日日大山を崩すの大賣行を見る所以也因に地方は男女別年齡を記し申込めば柄合親切に選び代金引替送料も實費で送る由

高貴御料
日本名物
ます〳〵景氣の好くなるクラブ白粉の賣行
高貴御料の品に殊にクラブは一番品が良うございますから一番景氣好く賣れて居ります
クラブ白粉の賣行近來益々盛ん也

朝鮮煙草株式會社
[illegible]
兩切煙草 パラダイス 十四本入 金武錢
兩切煙草 コスモス 二十本入 金武錢
京城義州通一丁目
電話[illegible]

京城太平通二丁目
多田不動産信託所
◎放賣家屋田畑大募集
共進會と即賣大會
京龍不動産即賣會
電話二二一番

大擴張
共進會觀覧者には特に御便宜叮寧に取扱申候
京城南大門驛前
武藏旅館
電話二三六四番

共進會に來越さる方は必らず津村にてみやげものを買ふ事を忘れ給ふな
定價表無代進呈
京城本町二丁目
ⓣ 津村兄弟商會
電話[illegible]番

機械油カーバイド
車印機械油
日本石油會社 機械油 輕油 重油 九州一手販賣
信濃電氣會社 カーバイド 西部一手販賣
本店 門司市錦町（電話[illegible]番）
製油所 新潟市笑屋大川前（電話[illegible]番）
岸商店

京城
柳屋旅館
本町（三越）裏通り　電話一一九四番
閑靜、丁寧、低廉
市の中央に在て諸種の用務を辨ずるに最も便利也

本品は　衛生博に於て名譽金牌
本品は　聖宮内省御買上の光榮

光榮ある社會の公認!!
秋は交際場裡に於ける
紳士諸君の活動的季節也
瀟洒たる風彩と快活なる氣分を養んとせば！
朝夕洗面の後叉髯剃後に國産随一の光輝ある化粧料
ホーカー液を
常用せらるゝにあり

本品は現代に赫々たる社會的賞讃を博し、其名聲は天下に公認せらるゝの光榮を有す。百聞は一見に若かず、如何にホーカー液が諸君に快感を與ふる?、如何に美顔料として適當なる?、如何に衛生上美容上有効なる?、如何に諸君に滿足を與ふる?、乞ふ御試用の上御賞讃を給へ、

本舗　東京和泉橋　堀越嘉太郎商店

産婦人科、小兒科
外科、内科、一般
院長　ドクトル メヂチーネ　佐藤小五郎
次長　醫學士　內田義雄
次醫　醫學士　山田萬作
仁川　佐藤病院
電話四〇九番

梅毒素人療法
注射に依らざる安全簡易なる自宅新療法
說明書無代進呈
東京本所向島小梅町一三四
東京藥化學研究所

前醫科大學醫院特命製劑者赤井藥劑士研究前海軍大藥劑士正七位動六等福森先生調劑強スピロールは近時歐米醫界の新傾向に徴し研究調劑されし最新式自宅新治療法にして難症にも偉大の効を奏す

京城日報

第三版

年中無休刊
（大祭祝日翌日休刊）

發行所 合資會社 京城日報社

大阪三品
下關期米
▲後場小堅し

朝鮮開發の五年

四 行政施設

慈惠救恤

罹災の救助については初め國費を以てするものと、地方費を以てするものと及び各府郡臨時恩賜金事業費を以てするものとの三ありたり。然るに明治天皇陛下崩御に際し畏くも大正元年九月十三日付を以て慈惠救濟の資として二十萬圓を朝鮮に下賜せられたるを以て、總督府は此の聖恩を永遠に傳へむが爲めに、大正三年三月恩賜罹災救助基金管理規則を設け、該御下賜金を基金となし其の利子を以て救助費に充つることゝせり、又昭憲皇太后陛下の崩御に際し再び十一萬五千圓を慈惠救濟の資として御下賜あり擧げて之を該基金中に編入せり。又從來國費豫算に計上せられし額も右の基金中に加へたり故大正四年度の初期に於ては是等元利金を通じて基金額は四十四萬五千六百餘圓の多きに達せり、茲に於て大正四年度よりは國費豫算中の罹災救助費は之を削除することゝ爲せり。總督府設置以來今日までに國費及び恩賜罹災基金中より支出せる金額は二萬四千八十九圓なり

醫療制度

往時朝鮮は一般に衞生思想甚だ幼稚にして年々各種の流行病、不攝生に因る消化器病其他罹病者頗る多く而かも在來の淺薄なる醫治に依るか又は祈禱に依るの外新醫術の何物たるを解せず疾患者隨所に呻吟して慘狀見るに堪へざるものあり、又從來朝鮮に於ては外國人が布敎の方便として經營せるもの、外孤兒の養育、不具者救濟等の施設少なかりしが、明治四十四年六月臨時恩賜金五十萬圓を下賜せらるゝに當り、之を以て濟生院を設立し孤兒の敎養盲啞者の敎育並に精神病者の救療を行ふことゝなれり。而して同年八月更に朝鮮に於ける貧民救療資金として二百八十五萬五千八百圓を下賜せられし爲め濟生院は合計三百四十六萬八千九百餘圓の資金を有するに至れり。然るに明治四十五年に至り總督府濟生院の設置せらるゝや同院及び總督府醫院並に道慈惠醫院は同一方針の下に經營するを便とし之を一般政費中より分離して一の特別會計の下に統一せらるゝに至れり。

總督府醫院は京城の北部に設けられ其設備完全にして中央醫療機關として狼ぐる所なく、入院患者三百七十八人を收容すべく、診療成績は益々好良にして民衆の信賴逐次增進せり同院には附屬醫學講習所を設け之を經營す

道慈惠醫院は各道一院制とし、主に道廳所在地に限られ、恩澤洽ねく至らざるの憾ありしを以て、明治四十五年四月個々濟生院より貧民救療を主とせる臨時恩賜金の寄附を受けたるより、之れを財源とし交通最も不便なる地方に慈惠醫院を增設し、且つ僻陬の地にして未だ慈惠回生の恩澤に浴せざるものに對しても均しく至仁の恩惠に浴せしめん爲め巡回診療を實施することゝなれりされば近時民衆は漸く救療の趣旨を覺り日本醫術に對する信賴頗る篤く、仁政中の仁政なりと稱して遠近相携へて診療を求むる狀況にして啻に患者救療の上のみならず又新政施行の上に貢獻したる所甚大なりとす。

總督府濟生院は現時孤兒の敎養及び盲啞者の敎育を掌り、養育部及び盲啞部を置きて之を分掌せしむ。是亦成績頗る良好なり。

大共進會 出品概觀（二）

第一號館（農業部）

第一號館の正門を入りて右せば即ち第一部農業にして館中最も廣汎の面積を領し出品點數亦各部に冠絕す本部中殊に觀覽者の目を惹くは入口に並べる大小四個の八角型陳列戶棚と中央大道路の正面に聳ゆる農產搭なる可し

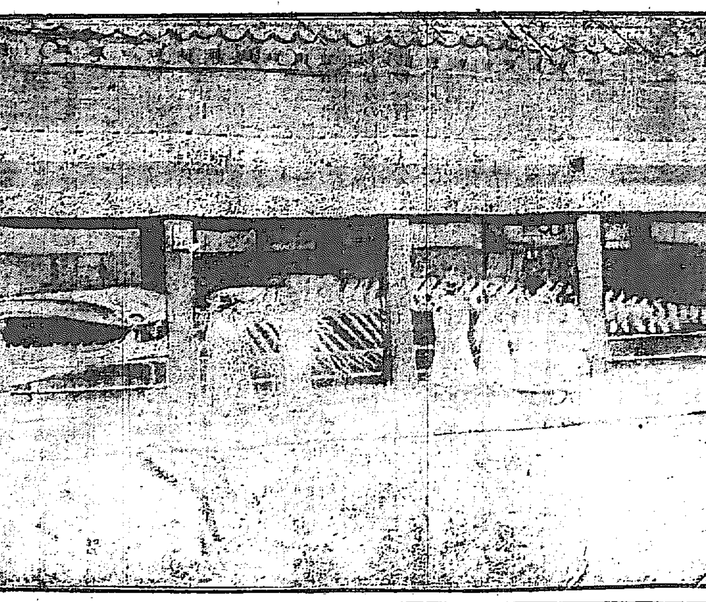
▲四個の陳列戶棚

▲其一　此戶棚は輸移出農產物の發達狀況を表示せるものにて最も手前の戶棚には開墾より調製、包裝に至る迄の代表的陸地綿を上下四區に分ちて陳列し其周圍には鮮內製綿會社の作業狀況を寫せる寫眞を並べたり

▲其二　次の大戶棚は各面に沿うて釜山、群山、木浦、大邱、元山、新義州、鎭南浦の八區に劃し上部に掲げたる港內寫眞の左右には何れも同港を經て輸移出さるゝ穀類の數量及び價格統計を擧げ寫眞の下には標準米及び穀類の見本を並べ下方に其包裝を示せる所、朝鮮取引者に取りては絕好の手引草たるを失はず

▲其三　之れに次ぐ大戶棚には中央に數卷の牛皮を樹て並べて生皮より熟皮の次第を示し下方には牛の小模型數頭を布置して耕、役各牛の種類より其繁殖輸移出狀況を現はせり

▲其四　最後の戶棚は明治四十三年より大正三年に亘る各年の繭輸移出數量及び價格を明記せる五隻の日本式帆船が紬、鱈、相嚼み繭を滿載して釜山より下關に向へる處を示せるが其船は輸移量に比例して各大小形を異にし又た棚の上部には六角形の廻行燈を吊して寫眞を挾み、共同販賣、輸移出狀況其他繭に關する一切の事項を現はせる等設備簡單にして要領を盡し觀覽者をして腦裡の印象を深からしむ



長須鯨の骨―長十二間―（共進會場勸農館の景　廊水產部館前に在り）

廻轉式農產塔

館內中央の大通路に聳立せる農產塔は高さ二十尺、米麥粟黍等五穀より成り、塔上の勾欄は玉蜀黍を以て造らる塔は四壁の中央を扶り拔き電力に依りて總督府始政以來農事の大宗として指導獎勵し來れる米、綿及び蠶、畜牛に關する既往五個年間の成績を廻轉表示し其上部には大正三年末に於ける主要農產品の產額を現はせる行燈形の統計表ありて亦常に廻轉す、此塔より入口の陳列戶棚に至る間には中央通路の左右及び兩側の壁面に沿うて一定の型の陳列棚を置く其數二十有八、米麥其他主要農產品數千點を陳列せり

東蒙鄭家屯（上）

滿蒙開發重要地點

日支新條約により所謂滿蒙經營は鐵道敷設と特殊金融機關の新設を待つて始めて其緒に就くべく隨つて是等設備の猶破らざる今日滿蒙經營の新局面に就いて何等見るべき形象の生ぜざるは怪むに足らざるも此際南滿及び東部內蒙古の狀勢を究むるは極めて必要の事に屬す依て左に鄭家屯の狀況につき最近聞き得たる事項を報道すべし（大連西山生）

▲鄭家屯の名　は夙に邦人に熟知せられ近來四平街鄭家屯間鐵道敷設の議あるに伴れ益々その名を知られしが之を遼源州若くは遼源縣と云へば今猶ほ其の何地たるを知らざるもの多し遼源は蓋し其の舊名なり此地は四平街を距る東西約百九十支里（我が二十八里餘）の地點に在り一方遼河の水運に依りて營口と相通じ猶ほ此間絕えず馬車の往來あり一方洮南を經て長春に至るを得べく而して內蒙古の主要府洮南とは五百三十支里を隔て彼我の關係亦た密接なれば東部內蒙古開發上鄭家屯は將來我國に取りて重要なる中心地點たらんこと敢て想察に難からざる也

▲住民の數　は勿論精確に知り難きも戶數七千餘人口約三萬八千位なるべく而して其の住民の大多數は漢人種にして蒙古人は之あるも極めて少なく且彼等の多くは支那化されてモンゴル族たるの特色を失ひ所謂熟蒙人として其の餘喘を保つに過ぎず此地の開放せられし當初即ち光緒二三年乃至七八年頃には戶數僅に三四十戶を數ふるに過ぎざりしが爾來年と共に增加し淸朝が之を州治の地として此處に遼源州を置きてより漢人の移住益々多く次で縣治となりし民國の今日も猶盛んに漢人の膨脹發展を見つゝあり日本人も二三年前より漸次移住し今は約百十餘名に及ぶと言はるゝも官公吏の外は質業、藥種商の類最も多く醫師二名牧畜業者一名あれど餘り振ひ居らず振ひ居るは例の醜業婦にして彼等は專ら支那人を相手として醜業を營みつゝあり無職の浮浪人も數名入込み居れり概して出稼ぎ的、腰掛的にして之を支那人の根抵深く地盤堅きに比すれば固より言ふに足るものなし併し斯る方面に迄も日本人の移住を見るは喜ぶべく將來益々その增加を企圖すべきは言ふ迄もなき事也（未完）

避暑漫筆

大谷光瑞

十、天然と人（承前）

抑も平和とは靜的狀態を云ふに非ず我と敵と相雜り我が力克く敵を壓し敵をして我に纖芥の微も害を加ふる能はざらしむる時を云ふ我行かざれば彼來る我動かざれば彼動く我眠らんとす汝我を擾する勿れ我平和を欲す汝我を害する勿れと云ふも敵國と我父子に非ず兄弟に非ず夫婦に非ず賓家親戚に非ず決して我言を用ひざるなり故に云ふ平和は我が力常に敵を壓倒しつゝある時にして已に壓倒し終らば又崩壞を免れず恰も引力と遠心力の如し二個の相反せる大動力の爲め地球も數百萬年格別軌道を變せず所謂平和狀態を以て回轉せり夫物盈れば缺ぐ月に盈虧あり潮に漲落あり易に云ふ亢龍悔あり我實に敵國外患を愛す是我活動力を生ずる要素にして工學の天然障礙に對すると同じ此の障礙を除かん爲め工學の大動力を出せり所謂平和主義者の唱ふる如きは怯者落伍者の類にして其言婦女の痴言に非ずんば泣言のみ丈夫の耳を傾くべきものに非らず即ち我步に疲れ足既に疾む汝又我に伴ひ憩ふべしと云ふが如し敵人は親戚に非ず何ぞこの言を容んや實に憫むべき徒輩なりとす宗敎者中往々此種の怯者あり蓋大乘の妙理は唯勇猛精進にして始めて之を行ふべし懦弱の徒類は既に菩薩乘の機に非ず況や一佛乘をや自己の怯弱を憫べしと雖も世を蠱毒し人の最大要素たる活動力を痲痺せしめ睡眠病者たらしめ終に滅亡に至らしむるは其質肺結核の蔓延より危險なりとす人の性火を恐れ水を愛す故に火に赴て死するは罕にして水に溺るゝは多し況や其悅ぶ所は甘き事蜜の如く醉はしむること酒の如し志操强固の丈夫に非ざれば惑はざるもの蓋稀なり恐るべきかな人の世にあるや原始時代あり天然と戰へり天然は雨あり日あり炎熱陰雨兩つながら苦し故に洞穴に坐臥し之を防ぎ寒あり凍せんとす故に獸を射て之が毛皮を纏へり唯今日の天然に對するや上古の如き一騎打に非ざれば工學科學の力を以て天然と戰ひ之に克ち之を屈せり若夫れ活動を止めんか先づ敵人の爲め最愛の平和を奪はれ次で天然の爲め又復讐を蒙り終に敗滅を免れざるべし故に云ふ人の克つ所以は動にあり動力大にして始めて眞正の平和を得而も之を持續するを得べし古に云ふ『君子自彊不已』とは其等の謂なり（此項完　八月五日大連にて）

日報俳壇

雉子郎選

桐の花

桐咲くや宵て暴徒の出し衞所　容堂
花桐や强き日の射る交番所　同
暦見ねば物せぬ母や桐の花　山民
花桐や汗に濁ち得し家の富　同
花桐や家寶所望の御使　雲帝
代々の儒臣の門や桐の花　同
桐咲くや雨夜ひそかに行く樞　雄川

栗の花

燒けて建たざる家や栗の花　潮外星
富むと代々柚を渡世や栗の花　同

合歡花

草籠に刈り滿ちて旭出る合歡の花　橙黄子
蹄鳴らして秣待つ間に合歡の晝　同

葵

旅の窓葵見入れば歸思動く　韮城
鐵溶かす猛火葵の夜に映す　同

紫陽花

紫陽花の枯葉こぼるゝ暗さ哉　義明
紫陽花や日蔭を待ちて草を引く　同

杜若

家空くを待つて移るや杜若　浦南
杜若妻に句作る心あり　同

本日朝刊 共進會畫報共 八頁

祝共進會開催

▲急告▼

◎記念新煙

「ビューテー」出づ!!

本品は共進會記念の趣旨により特製せる香味無類の新煙にして開會中に限り破格の廉價にて華客に提供可仕候

一包十本入
定價二錢五厘

試みに　新煙「ビューテー」を一度御喫用になれば其の人は良煙にして喫む心地良さに驚いて一生斯の煙草を離すまいと御決心になります

東亞煙草株式會社

列強大戰亂電報

▲露軍必勝の氣滿つ 捕虜獨兵の自白、獨軍漸く困憊

露都來電に依れば露國公報は從來よりも長文となり報道も詳細を極め今や必勝の氣に滿てる觀あり十三日夜發表の公報の結末を概算すれば露軍は著々其作戰計畫を遂行し形勢益々可なり 同公報は更に露軍がタルノポールの北方にて收めたる一大成功を報じたり、即ち同方面にては機關砲九門及び其の他多數の戰利品を鹵獲したる以外將校九十一名及び兵卒八千三百名を捕虜とし(捕虜中には多數の獨兵を含む)タルノポールの南方に於ても亦露軍は過日より攻勢を執りコンニハンシセンス河畔の墺軍はドニエステル河方面に向つて依然退却を繼續しつゝあり露軍は退却する墺軍を追擊し多數の捕虜を得たり 獨軍はスキデルを占領したりと主張しつゝあるも公報は之れを確認せず而して報じて曰く捕虜となれる獨軍の話に依れば獨軍の疲勞は今や其の極に達し最近三日間に於ける獨軍の損害は死者のみを數ふるも一個中隊平均百名に達すべしと(倫敦發)

▲露都と北方戰線の緊張

北方露軍の大本營附タイムス特派員の所報に據れば北部地方は目下最も重要なる戰線となれり是れ獨軍の運動が露都を目的として行はれつゝあるものゝ如ければなり(倫敦發)

▲駐米墺大使召還に決す

アムステルダム來報に曰く、墺國政府部內にはヅンバ大使召還に關する米國の要求を拒絕す可しとの議論ありしも結局大使を召還するに決せり後任は戰爭中任命せず代理大使を置く可し在墺都米國大使館には護衛を附し居れりといふ尙ほヅンバ氏は二十二日頃を以て米國出發歸國の途に登る可しと傳へらる(紐育發)

○海軍補充計畫內容

三十日の防務會議に於て下院補充計畫に對する決定內容を詳報せんに海軍側は財政の現狀に鑑み大藏省の查定に同意すると同時に大藏省に於ても海軍側の原案精神を容れ大正六年度以降に於て引續き之を實行することに無事解決したるがその決定せる總額は約四千六百萬圓にして大正五年度に着手す可き增艦費は戰艦一隻に對し之が活動を補助す可き輕巡洋艦潜航艇驅逐艦若干を包含するものにして其額約五百萬圓なりといふ(東京特電)

○補充案眞相 發表

海軍補充案に對する世說紛々として更に異意を傳ふるもの尠なきより海軍當局著は適當の時機を見計ひ海軍省より提出せる補充案の內容、防務會議の結果として早晚世間に知らしむべき事項等につき發表すべしと(東京特電)

○航空隊と豫算

海軍省に於ける飛行機の研究に關しては既に臨時航空術研究費として國庫より每年二十五萬圓の補助を受けつゝありしに活躍の時期に達したれば明年度より獨立航空隊を編成すべき豫定經費を八十萬圓大藏省に請求し置きたるに大藏省は之れに對しても大斧鉞を加へたれば隨つて該計畫を中止するの已むなきに至れるを以て更に之れを復活せしむべく大藏當局に交涉を開始せりと(東京特電)

○提出議案調査

十四日は閣議定日につき午前十時前後より首相以下各大臣首相官邸に參集閣議を開き議會關係事項中政府提出議案は十月中旬までに調査を終了する事に打合せ大隈首相より十三日防務會議に於ける結果を非公式に報告し午後一時半散會せり(東京特電)

○陸軍管區改正

十四日官報を以て陸軍管區表を左の通り改正施行の旨公布さる(東京特電)

第四、第五、第六、第七、第十、第十一、第十二、第十七師團管內の各聯隊區を變更す

大正四年徵收兵の徵集及び入營に關しては即ち從前の規定に又在鄉軍人の管轄區域は大正五年三月三十一日まで從前の區域による

○血精賣捌規則改正

十四日官報文部省令第十三號を以て傳染病血淸痘苗販賣規定を定め來る九月二十日より之れを施行し同時に明治三十八年內務省令第十六號傳染病研究所痘苗血淸類賣捌規則は之れを廢止せる旨公示ありたり(東京特電)

朝鮮大共進會

▲夜間入場注意

共進會に晝間入場したる者にして其まゝ引續き夜間閉場迄居殘る場合は別に夜間入場券を要せざるものなるも未だ此特典あるを觀覽者が周知し居らざる樣なれば一般に注意を望むと

▲聯合假裝行列

京城協贊會にては場內の餘興として兩三日中に飲食店、賣店興行者等聯合の大假裝行列を行ふこととなりたり

▲天勝一行來期

協贊會に於ては兼ねて演藝館に出演せしむるの目的を以て交涉中なりし天勝の一行三十八名との契約成立し來る十月十日乘込むことに決定したり

▲無料入場券の撒布

京城協贊會にては十四日より場內にクラブ白粉の輕氣球を飛揚せしめ時々演藝館の無料入場券を撒布することゝなり居れり

▲印刷物の配布

印刷局より機械館に出品中の印刷機械を以て十四日より館內に於て生じたる各種の事故を印刷に附し一般に配布すべし

▲賣飲食店と取扱

共進會夜間開場內に在る賣店飲食店の取扱ひ又は料理にして不都合のことある場合は直ちに場內協贊會事務所宛申出でられたしと

▲有料便所民營

演藝館後方に設けたる有料便所は協贊會より民間の經營に移すことゝなりたるを以て經營希望者は至急協贊會宛申込むべしと

▲水族館團體觀覽

仁川水族館十四日の團體觀覽は京畿道より三百人海州より五十八人仁川商業生徒百五十八人なりし

各種大會

▼朝鮮商議大會

第十四回朝鮮商業會議所聯合會は來る十月十三、四の兩日午前九時より商業會議所樓上に於て協議會を催すことに決定したり

◉段上將軍巡閱

段上將軍は十四日午前十時各國領事の答禮を受けたる後近々奉天、吉林、黑龍江三省の軍隊を巡閱すべし(奉天特電)

○奉天の觀覽團

奉天交涉員は朝鮮物產共進會觀覽の官民有志を勸誘しつゝあり成立の上は本月末迄に出發京城に向ふ(奉天特電)

▼實業家懇話會

全國商業會議所及び滿洲實業團體聯合懇話會は十月十五日午前九時より終日朝鮮ホテルに於て會議並に宴會を開く筈なるが目下出席の申込者は百餘名なりと

雜報

○立花總長招宴

警務總長立花中將は十五日午後七時淸華亭に於て晚餐會を開き重なる官民を招待す可し

○大阪鮮支貿易

九月上旬の大阪對朝鮮及び支那貿易は移出品價百十四萬三千七百六十一圓移入品價二十七萬九千九百三十二圓にて差し引出超八十六萬三千八百二十九圓を示せり(大阪)

	大正四年九月上旬	大正四年一月以降累計
移出品價	一、一四三、七六一	一三、四五六、四八一
移入品價	二七九、九三二	一一、〇四四、三二四
合計	一、四二三、六九三	二四、五〇〇、八〇五
移出超	八六三、八二九	二、四一二、一五七
移出金銀價	一〇〇、〇〇〇	一〇一、三〇五
移入金銀價		三五五、三一〇
合計	一〇〇、〇〇〇	四五六、六一五
入超 / 出超	一〇〇、〇〇〇 出	二五四、〇〇五 入
▲移出重要品		
綿布	三五六、六〇五	四、二五九、〇八八
淸酒	二八、二三六	四四三、七六〇
硝子	七二、一九八	八六〇、三三四
▲移入重要品		
米	一二三、六〇一	六、五三六、三二二
豆及豆類	二一、八九八	一、〇一八、二九六
牛皮及水牛皮	五四、一五四	八九七、五三二
▲對支貿易地方別		
輸出 滿洲	四三五、二五三	一五、九一二、六〇二
輸出 北支	八〇四、一五九	一六、四七二、〇一二
輸出 中支	八〇二、五四三	一三、〇四三、一九三
輸出 南支	[illegible]	[illegible]
輸出 不詳	[illegible]	[illegible]
計	二、一九二、三〇七	[illegible]
輸入 滿洲	[illegible]	[illegible]
輸入 北支	[illegible]	[illegible]
輸入 中支	[illegible]	[illegible]
輸入 南支	[illegible]	[illegible]
輸入 不詳	[illegible]	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]
香港へ輸出	[illegible]	[illegible]
香港より輸入	[illegible]	[illegible]

○繩叺共同販賣 群山に組合設立

群山に於ては籾移出穀物の增進に伴ひ之れが包裝材料たる繩叺の需要倍々增加しつゝあるが從來此れが供給を內地に仰ぎ移入額は大正二年に在りては叺六十一萬四千八百九十五枚なりしもの大正三年には百二十三萬千百一枚に達せり、然るに近時當局に於て指導獎勵の結果繩叺の製造業著しく發展の機運に向ひ其生產額逐年增加の趨勢を呈し來りて全羅北道而已に在りても大正三年度に於ては叺四十八萬二千七十二枚を產するに至り之れが品質の如きも亦內地產に比し敢て遜色なき域に進みつゝあるより本品に對する粗製濫造の弊を防ぎ品質の向上統一を期せんが爲め群山府內外の有志發起となり朝鮮繩叺共同購入販賣組合を設立し目下認可申請中なるが組合員は全北及び忠南の消費者に限り朝鮮各道產品を購入して組合員の消費を充したる剩餘品は鮮內各道の需要者に販賣する趣旨なりといへば本組合設立後其運用宜しきを得ば當局に於て現に從事中なる生產組合の設立と相待ちて產業の發達上裨益する處尠からざる可し

◉ゴルドン夫人歸京

溫井里金剛山ホテルの開業後直ちに同地に再遊し其後病氣靜養中なりし英國才媛ゴルドン夫人は十三日夜歸京し朝鮮ホテルに投じたるが約十日程滯在の上日本に向ふべしと

觀覽團消息

▲江原金化郡五十九名 貫鐵洞旭旅館に投宿中
▲同鐵原郡七十七名 貫鐵洞太陽旅館に投宿
▲黃海金川郡百三十三名 北部安國洞安國旅館へ投宿
▲忠南太田郡五十二名 齋洞指定旅館投宿中
▲同論山郡六十九名 同上
▲江原道淮陽郡七十四名 貫鐵洞旭旅館に投宿中
▲忠南公州郡六十名 貫鐵洞忠南旅館に投宿
▲京畿道廣州郡百九十四名 十四日退京
▲同加平郡百十一名 同仁川へ
▲同海州郡三十三名 同退京
▲平安新安州三十名 十八日朝入京の筈
▲大邱農林學校七十一名 十四日午前入京

人事消息

▲寺田祐之氏(廣島縣知事) 十四日出發內地へ
▲山道襄一氏(前代議士) 同上
▲前田昇氏(關東都督府警務部長) 十四日歸任
▲花柳師匠連一行 十四日出發歸東

◉銀行券發行高

九月五日より十一日に至る一週間の銀行券總發行平均高は二千三百六十五萬七千百一圓にして其內正貨準備發行高八百七十萬二千五百四十圓保證準備發行平均高千五百五十八萬四千五百六十一圓なり

◉市原鮮銀總裁歸任

豫て東上中の市原鮮銀總裁及び木村理事は歸途京阪地方に立寄り十四日午後九時南大門驛着にて歸任したり

鐵道大競爭

南行選手(湖南線の旅程を終り馬山に向ふ)
北行選手(滿洲の富源に嚮つゝ北へ〳〵)

南行旅程 ■別府八百吉

蘆嶺の峻嶮

十四日早朝木浦より大田に向ふ列車は榮山江の流に沿うて溯つたり又た羅州平野の中央を縱斷したりした、昨今の此ところ米も棉も全南は相當の出來榮である、午前十時頃から曇りたる秋空が漸く晴れ始め、兩縣の連山に動く白雲の影が濃く眼新しく見ゆるのは蒼々たる竹林の連りで其の如何にも暖國らしさを思はせられる、風のなき靜な日だ、同じ列車には全南の劈頭の共進會視察團一百名許が乘つて居る其中には汽車を始めて見る連中も尠なくない事とて隧道に入つたり鐵橋上を過ぎたりすると一樣にわい〳〵と騷ぎ出し却々の賑はひだ、全羅南北道の境界の峻山蘆嶺の長隧道を脫たのは正午少し前であつた、濃霧深く列車を包み、冷やかな山氣が列車內に迫る、裡里邊から乘客は愈々多く名高い論山驛から一里許りの彌勒佛では來る二十四日より秋期大祭を行ふさうで頻りに用意をしてゐる(十四日午後二時三十分論山驛發)

□別府選手馬山に向ふ

別府南行選手は十四日夕刻木浦より大田に來り荒川樓に於ける當地有志の盛んなる慰勞宴に臨み終つて午後十一時半馬山に向ふ元氣旺盛なり(十四日午後九時〇三分大田支局發)

北行旅程 ■神崎憲一

大豆と石炭

汪漠として際涯なく宛も海のやうな大陸滿洲の表面から掻き集めた遺利が大豆と爲り地中深く埋沒された富源の尖端が石炭と爲つて撫順、本溪湖に現はる、大豆と石炭は滿洲其のものゝやうに滿洲に取つては貴重品である、井坂撫順驛助役は僕と同鄉なのださう言はるゝまでは薩張氣が附かなかつた、驛長の證明を貰つて市中瞥見に連れ出され電車と徒步で四十分間に舊市街迄行く、官舍を主とした建築物で埋められた新市街の道路電鐵並木など第一の印象はまるで野原に金を撒いたやうだ七千の邦人と一千四百の支那人とが凡ゆる方面に非常に贅澤につかつても猶餘りあるやうな電力一千三百キロワットを容れて綽々餘裕ある、大公會堂殊に洋式二階建が建ち並んだ工夫の宿舍、正に之れ勞働者の樂園で其れは皆一日七千噸の石炭に依るのだ(十四日午前十一時三十分安奉線撫安驛發)

□北行選手北へ〳〵

奉天驛停車僅々數分汽車は汽笛を鳴らし北へ〳〵と驀進す(十四日午前十一時奉天發)

東西南北

▲滑稽『二度ボカン』京都御屋町五[illegible]鈴木とよの娘たい(二[illegible])が[illegible]戀りて五條橋西詰派出所の[illegible]が寺町通りを南に來る空車の相乘りが怪しいので[illegible]河原町蛸藥師下る邊を走つてゐる所を引捕へ區役所より京都病院に收容[illegible]

▲毒蛇海岸に[illegible] [illegible]生九名生死不明となる[illegible]に漂著北間の暴風雨で怒濤押寄す[illegible]流れて來たものと知れた右の海蛇は長さ二尺七八寸廻り二寸背は黑色で腹が黃色[illegible]

▲驅逐艦[illegible]向を轉じて附近に游弋中なりし某驅逐艦の船腹に衝突したが魚雷[illegible]は[illegible]

[illegible]田ぬいといふ女が十[illegible]前から腹部に腫物が出來て容易に治らない、最[illegible]の金光教の祈禱師に祈禱をして貰[illegible]

金剛山探勝

八月十日より十月卅一日まで南大門驛にて發賣

金剛山探勝 往復乘車券 二等 大割引 金拾圓

連絡經路 南大門元山間汽車、元山長箭間汽船に依る

金剛山ホテル 山麓溫井里に在り長箭港より二里にして達す

朝鮮總督府鐵道局

洗濯用としての石鹸の撰擇を誤る事勿れ 試みれば日本唯一の長崎木貞石鹸品質善良にして最も經濟的なり

長崎 木貞石鹸

他になき特色は 長崎稅關假置場及工場より輸出し又製造する本品原料に對し輸入稅免除の特典を有し價格最低廉也

特約店 京城明治町 牧野商店 電話二五三番

祝共進會

●臨時旅館營業開始 ●御料理大勉强

龍山 八景園 電話四六番

家庭內職生大募集急告

金儲之覇王 京城黃金町四丁目(電話二六五二番) 日之出護謨商會

▲弊會發案の大正式タイヤ修繕機械は從來內地等に在る舊式機械と全く異り大改良天下無双の最新式機械なれば業者は勿論家庭用に最適當志望者は來店又は郵券四錢送れば就業案內書送呈今回百名限り左の大景品付販賣す

◉大正式 自轉車各タイヤ修繕 人力車復舊修繕 機械大賣出

▲弊會は朝鮮に於る新案美術ゴム品製造界の元祖本業は土地適近老幼男女山間僻地を問はず自宅で出來資本十圓內外月收廿圓以上其製品弊會引受永遠取引年中無休海外輸出前途有望の好職業志望者は來店又は郵券十錢送れば製品見本就業案內書送呈 全北諸氏新義州特約店三友社へ

◉自轉車景品付大賣出急告

弊會發賣の自轉車 日之出號インバイヤ號タイム號バード號 堅牢無比 天下一品而も價格廉價此際開業披露の爲め左の大景品付大賣出す

□景品 一等自轉車貳臺 二等修繕機五臺、三等タイヤ五組、四等ベル十個、五等ゴム糊百個空籤無し

金牌受領 上酒壹升に付四拾錢 卸賣は特に割引可致候

淸酒美淋燒酎 釀造元 京城櫻井町一丁目 中井酒造場 電話百七十七番

讀書會々員募集

今回入會者には特典有り

會員の優待

▲一ケ月僅か十三錢の會費で
▲趣味津々たる雜誌を無代配布す
▲十種の文藝雜誌を每月會員に
▲諸雜誌新聞は會員の便利
▲居ながら無代で貸出し
▲新刊書籍は見本と共に
▲會則は取次有

振替 東京 讀書會

京城學校組合告示第三六號(前號續キ)

第九項 雜費 金二百八十八圓十二錢
第二款 會議費 金五百七十六圓四十五錢
第一項 費用辨償 金五百二十圓
第二項 書記手當 金二十九圓
第三項 需用費 金武拾七圓四拾五錢
第三款 小學校費 金十一萬三千七百七十六圓九十八錢
第一項 給料 金六萬八千百九十九圓八十六錢
第二項 旅費 金二千四百二十四圓九十六錢
第三項 宿舍料 金一萬二千三百三十二圓九十三錢
第四項 給料 金一萬四百七十三圓七十二錢
第五項 需用費 金九千九百八十六圓七十八錢
第六項 修繕費 金七千二圓二十八錢
第七項 雜費 金三千三百五十六圓四十六錢
第四款 高等女學校費 金二萬七千五百七圓五十四錢
第一項 給料 金一萬八千二百卅三圓九十九錢
第二項 旅費 金五百五十圓五十錢
第三項 宿舍料 金二千八百五十五錢
第四項 雜給 金千八百四十二圓十七錢
第五項 需用費 金二千九百三十八圓八十三錢
第六項 修繕費 金四百二十一圓五錢
第七項 雜費 金二百七十圓四十五錢
第五款 庚子記念幼稚園費 金二千三百七十二圓六十四錢
第一項 給料 金千二百十五圓
第二項 旅費 金七圓
第三項 傭人料 金三百十七圓五十五錢
第四項 雜給 金百九十九圓
第五項 需用費 金四百卅九圓九錢
第六項 修繕費 金三十七圓七十錢
第七項 雜費 金六十一圓三十錢
第六款 學事獎勵費 金八十一圓七十六錢
第一項 學事獎勵費 金八十一圓七十六錢
第七款 基本財產造成費 金二千八百十二圓八十二錢
第一項 學校林造成費 金ナシ
第二項 教育基本財產編入金 金二千八百十二圓八十二錢
第八款 財產管理費 金三千三百七十八圓六十二錢五厘
第一項 管理費 金千六百二十四圓七十三錢
第二項 諸稅 金千七百五十三圓九十錢五厘
第九款 國庫納金 金五百八十三圓十二錢
第一項 國庫納金 金五百八十三圓十二錢
第十款 雜支出 金二千四百四十三圓五十錢
第一項 借地料 金九百五十三圓七十錢
第二項 滯納處分費 金ナシ
第三項 過年度支出 金ナシ
第四項 一時借入金利子 金千四百八十九圓八十錢
第十一款 豫備費 金ナシ
第一項 豫備費 金ナシ
經常部計 金十六萬五千六百九十九圓卅六錢五厘

臨時部

第一款 小學校費 金一萬二百六十二圓五十三錢
第一項 改築費 金千五百八十三圓七十五錢
第二項 西大門小學校新設需用費 金七千五百七十三圓卅六錢
第三項 元町小學校設備費 金千百五圓四十二錢
第二款 高等女學校費 金千四百五十七圓四十九錢
第一項 改築費 金千四百五十七圓四十九錢
第三款 寄附及補助費 金千二百圓
第一項 寄附及補助費 金千二百圓
第四款 組合債費 金八千二百四十三圓二十七錢
第一項 元金償還金 金六千六百十五圓四十三錢
第二項 利子 金千六百二十七圓八十四錢
第五款 選擧費 金四百二十三圓十四錢
第一項 選擧費 金四百二十三圓十四錢
第六款 財產整理費 金ナシ
第一項 吉野町墓地跡整理費 金ナシ
第七款 償還金 金四萬六千六百三十二圓四十六錢
第一項 民團ノ債務償還 金四萬六千六百卅二圓四十六錢
臨時部計 金七萬八千二百十八圓八十九錢
歲出合計 金廿四萬三千六百七十八圓廿六錢五厘

人が[illegible]のため驅せ付け[illegible]家では患者初め一家四人共裏口より逃げ出し藥脱の殼で一同ポカン話し出した跡で又もポカン、ヤツとの事[illegible]井方を膕げられ[illegible]

[illegible]紀の川を渡る時船が顛覆して女[illegible]樣に逆擧ある男女學生三十餘名渡船[illegible]北の各[illegible]

毒動物と知れたが暴風雨で瞬時から息するハブ類の背黒海蛇であつて有て居るのを發見したそれは[illegible]に棲[illegible]

[illegible]を去る二十三年以前九州大島に出稼ぎ中同地の女と夫婦になり一子芳太[illegible]を過ぎた今日親戀しの一念から今度逆兒吉倉渡船場井上辰九郎の傳馬船の底をかすめ同船を顛覆し魚雷は方[illegible]

た段々調べて見ると同郡西尾村の金[illegible]判が立つたのださうな[illegible]それが誤り傳へて蛇を産だなんて評

●マ卿と朝鮮

憶ふ日本の親友逝く

京城市街の整頓に驚嘆す

菱田通譯官の追想談

前駐日英國大使クロード、マグドナルド卿の長逝は東電既報の通りであるが卿は駐日大使時代に二度渡鮮した事がある、其都度接待役を勤めてゐた菱田通譯官の追懐談に曰はく、卿が第一回の渡鮮は

▽併合當時 即ち明治四十三年の恰か十一月だつたと記憶する何でも非常に寒い日だつたが當時建設中の鴨綠江架橋工事を視察するといふので随いて行つた、此時代にはホテルの設備なんぞは出來て居無かつたので新義州に泊るなら客車で一夜を明かすより外はなかつたのだが何と云つても老體の事だから所寒が障つては大變だと思つて平壤まで引き返へしては如何ですと勸めると卿は頭を振つて『自分は嘗て軍人生活をしてゐるから此位な事には閉口せぬ』尤も此寒さは始めてだが阿弗利加では猛獸と闘ひ

▽毒蛇と爭ひつゝ苦熱を凌いだこともある、殊に此列車は總督府の好意でスチームは取り付けて貰つたし其他の設備も悉く行き届いてゐるから第二流のホテルに泊るよりは却つて結構だ』と云つて平氣で寢られた事があつた、其れから京城に滯在中朝鮮觀を叩くと『予は支那に駐在中朝鮮の公使を兼ねてゐた爲め明治三十年頃に一度出て來た事があつたが其當時京城市街の穢い事といつたら

▽言語同斷 で王城前の街を通つてゐる時大路に踏踞で放糞してゐる人間を數へて見ると十人に餘つてゐた、斯んな爲體だから貴婦人などは強い香水を撒布たハンカチーフを持たなくては到底も市中は歩けなかつたものだつたが今日の京城市街は非常に整頓せられ就中衛生狀態の行き届いてゐるには隔世の感がある』とのことだつた、翌て出發して釜山に行くと折柄の時化で

▽連絡船が 出ぬ、すると卿は朝鮮と日本は世界の航路に當つてゐるから此航路は將來必ず頻繁となるに違ないが此位の時化で連絡船の出ぬ樣な事では朝鮮の不便は勿論吾々の如く多少の公務を帶びてゐる旅客に取つては尠からぬ迷惑だとあつて幾何か不滿の面持ちだつたが總督府の好意で光濟丸を出したので大に滿足の意を表して歸途に就いたが卿は此時から既に連絡船

▽無線電信 の設備を主張してゐた第二回の渡鮮は大正元年で大連旅順を經て滿洲から入京二三泊の後發足されたが此時は施政の改善と氣候の著しい變化とを賞め稱へて居られたと覺えゐる

❀光の街

大平町から光化門迄

燦たる夜の家庭博

心をそゝる樂隊の音と、眼を眩す光の海に、家に落ち着て居る力は拔けて光、光、光、と晝よりも輝かしい夜の市中を太平町に歩を運べば街の兩側の大提灯が並木の柳の翠に映つて京城日報のイルミネーションまで打ち續いてゐる、太平町の入口は南大門の樓閣に點じた九百の球燈に照りはえて朝鮮公論とキリンビール聯合の大門が毅然と立つてゐる、本社前までそとろに光を縫ふて進むと自働オーグストラの奏樂が十四五町も此方まで

□瞭喨と響き渡るカテイハクの文字と之れを圍む青と赤の明滅する裝飾燈がキラリチラリ映じ出す面白さを山の樣に集つた白衣の人々が何時までも何時までも眺めてゐる、軒と塔と壁に沿ふて點せられたイルミネーションは東洋一の新聞社の建物の輪廓をクッキリ浮き出させて宏壯雄大、美觀、壯觀——之れはまだ手前味噌に過ぎると思つて遠慮した云ひ方であるのだが）こゝから新橋通りを光化門に志せば、電車通りまでは同じく大提灯が軒の兩側に並木と並んで打ちつゞく、李王職美術工場の朝鮮宮殿式の大建築には青、赤、黄の飾燈が家根と軒を逗ふてゐる、おや北電車だ〳〵、共進會行の札を掛けた電車から吐き出す人はその花電車の黄、紅、紫、桃の色電燈に映し出されて美しいとも、美しいとも見上げる二基の協贊會の

▲塔の飾燈から 春日燈籠の雅かな光の中を波爲す行人の間を潜るやうにして行く愉快さ、長い〳〵此光化門通りも爲めに餘り短い氣持がする

雄壯宏大なる光化門の電氣裝飾の下を光を全身に浴びて入れば、噴水塔の噴き出す數條の噴水に珠燈の光が反映して水に濡れた噴水塔や噴水の肌まで透る樣宛然之れ水晶宮の中に在る心地だ、東拓館の南西の大池にも一條の噴水と小波打ち震ふ池面に池を巡る球燈と附近の建物のイルミネーションとが相交錯して映り且つ浮び美觀云ばん方なしだ、池畔のベンチには歸るを忘れた觀客の幾組

□光景に醉つた 如く腰を掛けて居る陳列館場に入れば演藝館に近き大小の洋館、殿宇、樓閣から射す光の雨の樣に降つて勤政殿、廣告燈の電光は雨伏せする程に明く照す、慶會樓前の池について佇めば、樓閣のイルミネーションは池中に深く倒影する、その間をスワンの幾羽が靜かに游泳して時々眞白の翼を羽打けば、樓閣の彼方此方には白衣、水色の袴豐かに裾をひいて行く朝鮮婦人の氣高き姿——何處からともなく聞ゆる樂の音もこゝでは嚶然として奥ゆかしく、恍惚として心もとろけんばかりの思ひがある、餘興場の騷しさを雅に造つた虛花の休憩所に暫時足を休めて賣店の前から迎秋門に出れば時は既に十一時、げに此頃の京城は眠る暇さへ無い歡樂の巷、不夜城とは誠に京城の此頃を云ふのであらう

❀名士の批評

とり〳〵の御注文

賑つた家庭博貴賓室

正午過ぎ驟雨ざつと降り出したのにも拘らず十四日は朝の間に來た鮮原の觀光團を始めとして

■地方觀光團 の團體見物が十組ばかりあつた外に閉場の五時過ぎまで一刻も休まず雜踏混雜がつゞいた此の混雜の最中水越理事、三島理事、太田出納局長、山田庶務局長、鮮銀一行、井上東拓理事、原田朝鮮社長、加東東亞煙草製造所長、韓相龍の諸氏が打揃つて來觀、一時間近くかゝつて仔細に觀て廻つた休憩所に來ると同時に井上理事は『實によく出來た是程完全に出來てゐようとは思はなかつた大成功ですね』といふ、それにつゞいていろ〳〵批評が出る、注文が出る、朝鮮の家庭の內部に就ては韓相龍氏の說明があつて

■種々議論も あつた水越理事は中流往宅の設計圖は一般の參考になるから是非寫眞にもして新聞に出したがよからうとの注文、原田社長は臺所の設計は船中のそれによく似てゐる、世の中が忙しくなるに連れてあれでなくては可けなくなるだらうといふ、井上理事は吾々老年になつて隱居所でも造る時の參考室になつた養老室を說く、要するに兎角等閑になり勝であつた家庭の研究が十分に出來てゐると同時に家庭研究の動機を與へた効果は少なくないものであるといふに歸著した、李秉武子爵同夫人、備重顯子夫人その家族李根澤男爵、夫人家族等も來られたが或は食事の仕方がいゝと言ひ或は背負ひ方がいゝといひ

■何れも滿足 して歸つた、[illegible]部咸南警務部長は家庭の改良といふ事は心ある人は皆考へてゐるのであらうが在來の習慣や種々の事情で中々出來ないのである、それを思ひ切つて改めるには何かの動機がなくてはならぬ、今度の家庭博が各專門家の考案になる理想の家庭の有樣を示したといふことは即ち家庭の改良を認めつゝも徘徊ひ迷つてゐる人に對していゝ機會を與へたものであつて私は物產共進會と共に家庭博を任地に踊る何より好い土産にして吹聽しようと思ふと言はれた、正午過ぎからカラリと霽れたので子供連は大喜びスベリ山だのデン〳〵太鼓だのが大へん賑はつた

□家庭博運動場　デン〳〵太鼓にスベリ山

❀書畫展覽

家庭博覽會場にて

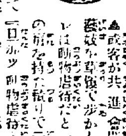
家庭博覽會場に陳列された書畫扇面は東京に於いて有名な書畫家が特に揮毫した苦心の作を集めたもので朝鮮に於いて屢々催ふされた個人乃至朝鮮在住書畫家の展覽會には見られない傑作佳畫がある主なる筆者を擧げて見ると

渡邊華石、河南竹路、山田[illegible]紡、宗風石、池上秀畝、中村岳陵、久保田金僊、內藤晩亭、滑川澹如、木原眞靜、稻垣蘭園、小坂芝田、石井柏亭、深野知堂、鴨下晁湖、香川勝彥、小山榮達、[illegible]西川、栗峰玉泉、津端道彥、[illegible]、秋峰素明

などで價格は四圓以上二十五圓位まである次ぎに出品者は前記諸氏の外

中川蘆月、池田輝方、蕉園、[illegible]、荒木十畝、平福百穗、山下[illegible]、吉田博、高島北海

などで一本八十錢から六十錢位までいろ〳〵ある



▲盛客が共進會開場式の日藝妓が草履で歩かしたのはアレは動物虐待だと一かど藝妓の前を持た積りで云と一人の藝妓が『[illegible]動物虐待とは何です[illegible]藝妓こそ致して居りますが之でも人間い[illegible]係まけてはムいませんか』と[illegible]啖呵を切つたので色男大に敗北[illegible]取るつもりでお世辭を云つたのにアベコベに[illegible]『閉罪つた〳〵』▲鐵道局の村瀨君は協贊會の依賴で長唄の師匠を呼ぶ事に骨を折つた[illegible]何でも[illegible]餘興の事なら村瀨君に持込み相談をするので村瀨君大に凹んで了ひ『之れでは全く助からない今に[illegible]官からお眼玉ちつ骨を折て叱られては割に合はないからモウ嫌だ〳〵』と云ひながら村瀨さん『長唄の方を何とか……』と釘本君から賴まれると矢張り『ハアヨロシイ〳〵』▲二號館前、花壇の周圍に置かれたベンチに『喫煙所』と札を立て掛けその前に灰落を一つ〳〵置いたのは好煙家に大持てである▲所が十四日にはまだ演藝館の中に煙草盆の用意が無かつた、早く喫みたい、吹殼がら落ち散つてゐるのは汚いのみか危險だ▲賣店に客の滿員は景氣がいゝが一時間も待たせられるのは笑顏でペコ〳〵の場合大閉口のみかその値段の高いのは眼玉が飛び出す樣なのがある、今は薄利多賣主義にした方が雙方の爲だと思ふ▲十四日は晝過ぎ一寸雨が有つたが降るの[illegible]好天氣で此間からの曇天がスッカリ恢復した[illegible]上理事長曰『開場當時は全く心配した、雨が十一日に降たら……今思つてもぞつとする、其れが現に角天氣に恵つたのだから申分は無い、之から先きは雨が降つたつてもう文句は云へぬ』

●青年會三宅博士講演 永樂町基督敎青年會にては十四日午後七時より來京中なる三宅博士の南洋新占領地視察の講演ありたるが多數の聽衆來會し非常の盛況なりき

●朝鮮全道神職會 十五日より十九日迄五日間京城神社に於て朝鮮全道神職會を開會する由

家庭博見物

太郎さん記

（二）愉快だ〳〵

お父樣は共進會開會の日、朝から共進會の開會式へ行つて、御馳走を喰べたり、曲馬を見たり、踊りを見たりその上歸りに京城日報の家庭博覽會まで見てホク〳〵もの、お歸りになると、ひさりで面白さうにいろんなお話をなさるので僕はその晩、とう〳〵共進會や博覽會の夢を澤山見てしまつた、それで十二日の日曜にはお父樣が留守番になり、お母樣と姉樣とれへ〇〇と僕とで出かける事になつた、

□姉樣が女學校で今度の水曜か木曜に先生と觀にゆく事になつてるから□

と、いつも[illegible]たのが嬉しかつたから『[illegible]今日見てその時又見れば二度叱られるぢやないか』と鏡の前にべたりと座つたら『ホラ〳〵やつぱり行きたいんだらう、やあい——』つて笑つてやるさ

▲極りの惡るさうな顔が鏡に映つた。そこで僕等は家を出た。朝鮮旅行の前で電車を降りて太平町へ出ると紅白の布や[illegible]の能旗の出てゐる社殿よく見る京城日報の紋のついた三角の旗、日の丸の旗などで奇麗に飾られた京城日報社の塔の『カテイハク』と書いた下の窓から音樂が聞えてくる、姉樣がよく彈いてるオルガンで習えた僕の一ばん好きな軍艦マーチだ。『守るも攻むるもくろがねの——浮かべる城ぞたのみなるぞ——』お母樣に手を曳かれたまんま拗れて歩いたら『見つともないからお止しなさいよ、太郎ちやん』と姉樣が氣取つた顔で僕を見たので止めた。しかし

□姉さんは『綺麗だこと、妾這入りたいわ』と塔ばかり見てゐた□

これには僕も同感で『這入らう、這入らう』と言つたらお母樣は『共進會の歸りに見るんですよ』と言はれたが姉さんが例の奥の手の『それでも先へ觀てゆきませうよ、ねえお母樣』と鼻聲を出したのでお母樣も『いやな子だね』と言ひながら嬉しさうに會場に足を向けられた。青竹で幾本も立てゝ造つた門を這入り切符を買つて中に入らうとすると、オーケストラは『彈丸打つ響は雷の——』と僕等を迎へる樣に大きな音を立てゝマーチをつづけた。僕は嬉しくつて胸がどき〳〵した。そうして姉さんを追ひ越して紅い布を卷いた木につかまつてどん〳〵入つたら、水彩繪具のエメラルドグリーン色の窓が僕の眼に入つた、赤い色ばかり見て來たので大へん心もちがよかつた、其窓に紅葉の木が二本立つてゐるのが美しく見えた。僕の家の二階の梯子段の樣な階段の五つにも折れたのをどん〳〵昇つてゆくと臺所の窓の中に

□白い前掛をした叔母さんが何かしてゐると思たらそれは人形だつた□

で『オヤオヤこれは人形だい』と大きな聲を出したら青い服を着た姉さんに似た女看守が僕の方を見て笑つた、そこには『瓦斯臺所』と書いてあつた。その隣は『瓦斯風呂』とあつて半身裸體の女の人形があつた、その隣は『瓦斯座敷』といふので綺麗な人形が座つてゐた。そんなものより僕が面白いさ思つたのは楠木の澤山並んでる傍に『不思議の鏡』といふのがあつてその前に大人や子供が澤山寄つてゐる。成程見ると面白い、これは面白い、丸い僕の顔は勿論だが長い姉樣の顔もお母樣のお顔も平つたくなつた『嫌だわ妾あんな變な顔ぢやないわ』つて姉樣が言たが不思議な鏡には矢張り變な顔が今度は二尺位に長くなつて布袋樣の化物の樣になつてる、こんなに面白いので外の子供が中々退かないから『オイ君退き玉へ』と一人の子供の背を突いてやつたらお母樣に叱られた

芝居と遊藝

▲共進會內生花の各流會 共進會場內勤政殿左側廊下にて開期中次の通り各五日間づゝ生花の陳列をなす由

自九月十五日	三光流	橫井和[illegible]	外十四人
自九月廿日	未生流	岩田[illegible]齋	外十六人
自九月廿五日	未生流	常磐[illegible]齋	外十四人
自十月一日	池の坊	[illegible]	外八人
自十月五日	同	[illegible]堂	外十九人
自十月十日	同	末廣[illegible]亭	外十二人
自十月十五日	各流宗匠連合		
自十月廿日	青山流	有吉松[illegible]	外十二人
自十月廿五日	同	[illegible]園	外十七人

▲天勝は來月十日 既報の如く松旭齋天勝一行は協贊會との契約纏まりたるを以て新興行地の企落を打揚げ大阪神戶の二箇所を經て當地に乘込み十月十日より向ふ十日間演藝館に出演し內地至る處にて好評を博せしサロメ多數十種の奇術を演ずる筈

▲長唄連愈々退京 踊り振付のため來京中の花柳芳之助その他長唄連中一行は十四日午前八時三十分南大門驛發にて歸京したり

▲黃金館寫眞差替 黃金館にては十三日より寫眞全部の差替へを爲したるが主なるものは左の如し△海底の戰鬪動物△シャツの話△夜間三國[illegible]來の寫眞△幸福の日△呪の水車

▲御成座 十五日夜の藝題は新乳姉妹全十場と喜劇さつま藝香全二場なりと

▲佐久良座 新派大江戰雄の一座にて每晩藝題を替へ一座大車輪にて演ずる由

△十五日の演藝館 興行 出演の藝妓は中券番にて午前に『つひのよるべ』午後は『御代の榮』を踊る由、尙鮮人藝妓は廣橋組合の妓生にして午前に『佳人與枚升』『拋毬樂』午後は『五羊仙』『波香祚』『[illegible]舞』を出し夜に入りては活動寫眞あり『間一髮』を呼物にせる外茶洞組合妓生の三絃を彈きながら日本歌曲越後獅子を唄ふ餘興ある由中券の出演藝妓は左の如し

▲踊 玉龍、花龍、花子、りつ、若子、久子、小染、春子、千成、千代香、喜代治、小喜勇、政千代、高小、大郎、雪丸、十六名

▲段もの 君菊、小牡丹、三郎、政勇

▲地方 香代、若一、その、金太、小喜松、牡丹、金五郎、お高、三つ奴、金玉、福丸、一若

△場內の假裝行列 共進會食堂、餘興場內の料理店飮食店賣店等申し合せ一大假裝行列をなさんと目下相談中にて來る廿日頃には擧行すべしと

讀者文藝（一等には五十錢の書籍切手贈呈）

歌題『別れ』『別離』

今日も亦後姿のよく似たる人に逢ひけり別れし君に（一等）　京城　宵人

○悲しさとじつとおさへてわれ一人君さわかれし淋しやさびし　京城　古都子

○人形も山彫もみなはなれ行く船路の末は涙ぐまるゝ　京城　柳學

京日案內

●番外 一回前金六十錢（無割引） 匿名一回每に金五錢增

●折詰 共進會御持參用 御用命次第迅速御便利に御届仕候 京城日報社正面 電話取次五三 魚房 536

●裁縫 實用的を主とし教授す 御希望に依り生田流琴曲、池坊生花何れも隨意親切に教授す 若草町廿六番ポスト入 森裁縫所 537

●諸機械 活版石版印刷諸機械自動車並に諸發動機各種ポンプ類諸機械据付組立其他機械一般御用命に應ず 京城若草町 電取次三三 藤井機械所 538

●活版印刷工入用 但し內地人に限る 黃金町通り 電話二八番 菊池活版所 541

●朝鮮に二つとなき製造工業 主人病氣歸國に付至急讓渡し度し 資金要五百圓純益月百五十圓以上 明治元町[illegible] 永井小間物店 545

●共進會無料出入門鑑は共進會御指定當館に御出なさい非常な便利を計ります 共進會場內東亞煙草天廣告塔の下 エム寫眞館出張館（本館龍山 電六〇五） 539

●土產品は翡翠に限る 明治町二丁目 村井商會 ●朝鮮●朝鮮豆 名產●高麗豆 珍藥●新羅豆 元祖 取次電三五〇 櫻井町一丁目 村井商會 取次電三三六 544

●通信教授 講義錄發行何人も直に上達する新案特許の方法論を證據詳細規則進呈 九州福岡中島三 大日本家庭音樂會 508

オモチャ 共進會歸りに御兒樣達の土產品御店は二限ル 京城明治町二丁目 吉岡オモチャ店 電話一八四〇番 500

恩給年金類立替 京城御成町 電話二七七番 山口屋 426

支部及特約店募集 專門賣藥四十方劑希望者は郵券五錢送れ規則書郵送す 京城府漢江通十六番地 帝國博愛團 421

恩給年金類立替 京城本町三丁目四十番地 電二二六一番 博多屋本店 428

店員入用 吳服太物商に經驗ある者年齡十五歲以上廿二歲迄の身元保證人ある者希望者は履歷書携帶本人來談あれ 京城本町一丁目 ます屋吳服店 525

恩給年金類立替 京城若草町壹丁目一〇六井出邸內 電話二二六三番 西村商會 427

諸鳥羽製品 剝製標本類 弓矢 附屬一式 京城本町三丁目四二 早瀨商店 494

●普通 一回前金三十錢（無割引） 匿名一回每に金五錢增

●店員備入 十七八より廿五位迄吳服商に經驗有る者一名希望者は履歷書送れ 春川邑內 大和屋吳服店 542

●集金員募集 卅歲前後の男子身體強壯にして保證金提供し得る者を求む 西小門通 シンガーミシン會社 543

●外交員募集 商向にて有利外交に經驗ある者五名、希望者履歷書携本人來談 明治町二 藤原蔘精堂 540

●內職 日鮮婦人紙袋張年中休無希望者左記へ 鮮人紙斷入用至急來談あれ 京城明治町一 紙製品商 清寬商店 546

●女中口入 官吏商家旅館下宿屋 ○○○○○○○○○ 明治町二丁目 萬年社 電一八四四 316

●有望職業 郵券八錢送れば見本添へ即答△ゴム玩具サック類 大阪貿 京城太平通電話四八八 大正洋行 416

●地方頒布員募集 御即位式記念圖 月收八十圓以上 目錄及相定書送 東京淺草區高原町二 集書堂出版部 533

●給事五名採用 年齡十五六歲身元確實なる者希望者は本人至急來談あれ 明治町 日韓印刷株式會社 532

●樂器買入 古バイオリン、オルガン、琴 御不用の御方は買入ます御持參下さい 本町四丁目三 杉野樂器店 528

電話番號變更 電話 編輯用一〇七〇番 營業用二四〇〇番 本社營業用二三九八番を右の通り變更致候間此段廣告仕候也 京城太平通二丁目 朝鮮公論社 日本電報通信社

瀨戶皮膚科外科醫院 旭町二丁目（舊三丁目） 醫學士 瀨戶潔 診察夜九時まで （電話二四九八番）

◎廣告 八月二十五日競賣に付したる本產は豫定價格に達せざるに付更に來る二十日午後一時より競爭入札を以て執行候間入札希望者は物件目錄等の上入札せられたし 朝鮮龍山元町二丁目八十番地 宇惠喜醬油株式會社 清算人

▼▼中風病▲▲ 私家祖父及父は中風にて歿し現に實母は二十年の久しき同病にて困難せる結果不圖良藥を得て其効果を見つゝある喜びの餘り汎く世の同病者に告知せんとす郵券貳錢封入申込あれば詳報すると共に一千人を限り朝野名士題字の家庭療養書を進呈す ▲兵庫縣明石郡[illegible] 細占忠兵衛

小兒良藥 樋屋奇應丸 專治 小孩のきつけ、むし、夜啼、癇癪及發熱、生蟲等に奇効神の如し 到る處の藥店に有り 大阪天滿橋 樋屋合資會社

瓢の旗風 (552)

番衆浪人　筒井年峰畫

詭策（十九）

國府土佐守は、乾と容を更めて。

『事此處に至つて、此方より御和睦とある、嘸かし御無念にも思し召されうが、兵は詭道、徒らに御不覺を取らせたまはるより、一度忍んで御和平の儀。』

『成らぬ！成らぬ！』と信孝は烈火の如く怒り立つて。

『[illegible]を彼に衛と。彼より予の怒りを買ひ、既に籠城の用意のしつるもの、今更と相成り、何條此方より和睦の沙汰、それ、和睦で無うて、正に降服ぢやわ！』

『御意、とは御坐りますれど……』

龍信濃は膝押進めて。

『まづ聞かせ！筑前の出陣、思ひの外の迅速、殊には其兵も我等が推察の三倍も御坐りまする。もとより、中國まつた彼が山崎にての手並、人の意表に出づるが定、此度も唯驚くよりは呆れて御坐る。その上に當方は味方と思ひし隣國の兵も、寄手に款を通じ、賴みに思ふ、柴田瀧川の兵は來らず、此儘にしてあらんには我等は唯自滅の外は御坐らぬ！』

『信濃……其方や怯れたか。』と云ひは云つたが信孝も、思へば理の當然でもあり、互替に諫める兩將の言の聊か耳に入れるか、あらぬ方を睨と見やつた。

『無念心外を忍び、一度は僞つて和平を講じ、後の御計畫こそ肝要と存じ申す。』

『して、後の計畫とは……』信孝の激しい語氣は稍挫けた。信濃は聲を沈めて。

『恐れながら殿は筑前を憎ませらるゝの餘り三法師君を、當の御敵になさるゝ』

『それ以つての外の御誤り……』

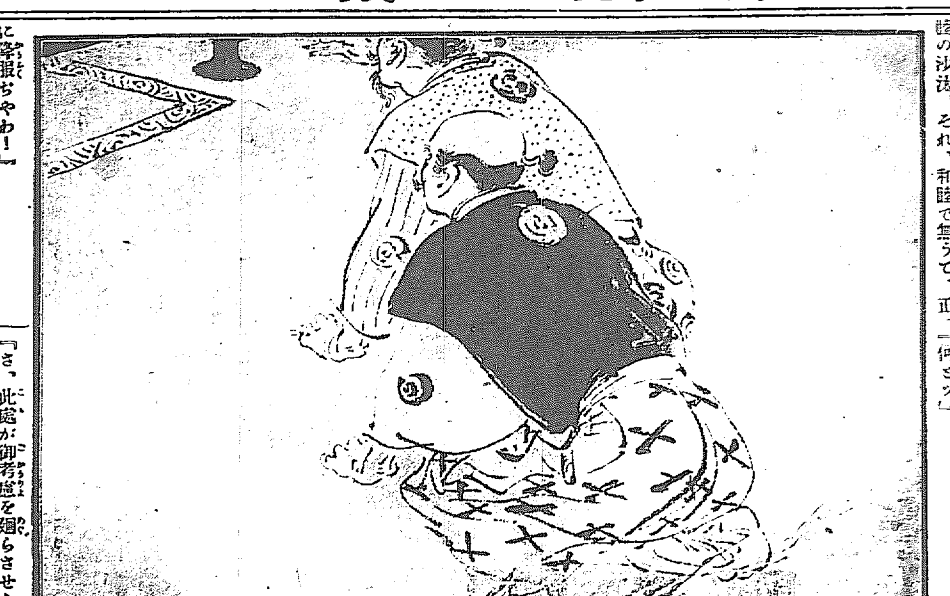
『何とッ』

『さ、此處が御考慮を廻らさせられねば相成らぬ處、たとひ、三法師殿まだ幼氣の、何御存じなき御方にて筑前が我意のまゝに、これを推戴致したにせよ表面より申せば、取りも直さず織田家の御主、贈相國様の御後目と御坐あるからは、これに背くは北畠殿とあらうが、殿とあらうが、織田家より見れば正に叛逆さ、當方その名正しからぬ故に、彼筑前には多くの味方の附き申す。されば後の計畫とは、一度和平の調へて彼の油斷を見濟まし密々に瀧川、柴田佐久間等と牒し合せ雪解けて北國よりの通路開くを待ち一度にどつと寄せ士を攻めきするぢや。して三法師殿を當方の手に奪はゞ、何と御坐らう三法師殿を笠に被てこそ筑前は殿や柴田殿瀧川殿を叛逆呼はり。然るに斯くする上は筑前は正しく謀叛。その旨を以て諸將を召されひた押しに筑前を討たせて、さて其後は殿！一時の方便たる三法師殿は何となされうと殿の御心の儘、殿が正に天下の御主。柴田瀧川の兩將を執權として征夷の御職にども』

『ム、信濃、よう云やつた！』と、信孝はハタと膝を打つて。

『其方達兩人は、實に予が爲の守護神。やがて、此信孝天下に備はる上は、格別の恩に報ようぞ。さらば、無念ながら、一時を忍んで、筑前方へ、和平の儀、よしなに賴む……』

『流石は御名君、ようぞ御聞かせた爲事は我々共が……』信濃は斯う云つて土佐守と共に御前を退き、直ちに講和使として鹿伏兎右京亮を秀吉方に遣はすことゝなつた。



歌

新吟會同人

□日に增し當間の歌評も色彩を添へて來たやうで吾々一味の者も面白く拜見しております、また當朝局同人の御苦心の程もさこそと御推察してゐる者でございます

□さて僕等の集ふ新吟會もだんだん人員が定まつて來て此頃では六人となつて居ります

□僕等は自分の見すぼらしい暮し向の事を一切隱さずに常に歎と眞面目な態度で歌んでおります。勿論隱しておきたいとも思ひません、寧ろこの見すぼらしい暮し向の中に生活してゐるライフが僕等の歌を生むのだと信じております

□言ふまでもなく僕等の生活內容は物質的にも精神的にも甚だ貧弱なので顧みて恥しいことが實に多いのです。

□そこで僕等は自巳の無力劣弱で無智を直視して、總てこれらの缺陷と無力とを徹底してやがて僕等の期待する所の生活に近づき、そこに完全な覺醒を作り上げようと努力して居る者です

□常に先覺諸兄の御指導と歎に就て充分の御承認にあづかり度いと思ひます

□訂正　十二日朝刊に掲載された詠草の中で、玉村の作

天上天下唯我玉村いまぞわれかいつぱいに欲張れるなり――は天上天下唯我玉村いまぞわれ力いつぱいに欲張れるなり――の間違ひですから訂正しておきます

■新吟會第六回詠草

その笑ひ、嘲り、誹りみな人の氣まぐれ心と信ずるは何日　南奇

パツといふ花火の音を驚ろきて見上げし人の馬鹿らしき顏　玉村改　染二

香一つ、やがて二つ三つ、四つ五つぢつと聞きたる秋の花火かな　明陽

佇みてざゝ、あざあとこゝろよく流るゝ川を見てゐるころ　榮治

昨日までは氣にもせざりしそのことが今日は悲しき金のなきこと　文郎

やつれたる顏をしかめず泣きやまぬ子をなだめんとす若きママよ

大阪株式特電

十四日後場

▲後場の商戰　一錢と據て高入帳に四節賣物細はれ再び七錢と返し結局二十六錢と放會

▲後場當限寄付十二圓三十四錢止め三十五錢 △中限寄付十二圓五十錢止め六十二錢 △先限寄付十二圓七十八錢止め九十一錢

十四日の十一月限

平均値段　一二二節 九圓二十四錢

人と人と應接する時談話する時禮義と衛生とを重んずる上に於て衛生口錠

カオール を口中せられよ

カオールは自他衛生上最も安全に口中より馥郁たる芳香を發し他人に快感を與ふ

●弗入形卅八錢 ●鞄形廿五錢 卅錢袋入五錢十錢 ●箱入廿錢 五十錢一圓

本舗 東京 安藤井筒堂

鳥割烹 都鳥 永樂町本願寺通 電話七四

揚がる！揚がる！

威風堂々化粧品界を獨歩するレート本舖の

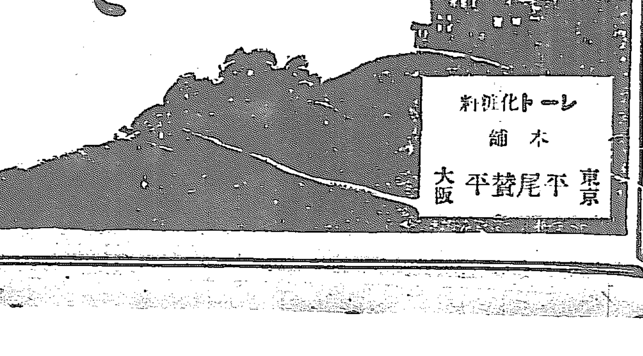
レート大飛行船！

京城の碧空高く

晝は雄姿堂々夜は電燭晃々

無限に笑ゆる

市民各位の御愛用を感謝して



レート化粧料 本舗 東京 平尾贊平 大阪

會員大募集

新學期開始

實業之日本社

總裁 大隈伯　副總裁 澁澤男爵

實業講習錄

中學程度の實業科目悉く教授する通信教授の模範

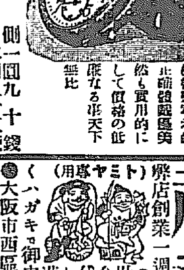
一箇年にて終了 此際入會金全免す 奬學金贈與の特典

自宅獨習自在 說明懇切文字平易何人にも早く解る實用本位

會費一箇月五十錢 見本無代進呈

東京市京橋區南紺屋町 實業之日本社内 帝國實業講習會 振替口座東京四〇一六

●新荷著アンクル式片側懷中時計● 機械堅牢示針正確頑健優美 然も實用的にして價格の低廉なる事天下無比



十九形	鐵側	一圓九十錢
十六形	同	二圓八十五錢
十一形	同腕時計鎖付	五圓二十錢
十六形	ニツケル側	二圓六十錢
十三半形	同	二圓九十錢
十九形	同(機械表示)	三圓九十錢
十六形	同	八圓五十錢
十九形	同	十五圓
十八形	銀鍍金(調刻蓋)	二圓十錢
十六形	金鍍金調刻兩蓋側	四圓二十錢
同	銀	八圓五十錢
十九形	同	十六圓八十錢
十七形	同(銀七寶)	廿六圓五十錢
十一形	同(腕時計)	十三圓八十錢
十九形金	同パリ(十年保險)	十八圓
十八形	同	二十圓
同	同	廿一圓五十錢
十六形	十八金	百五圓
十九形	同	百五十五圓

右は今回新着の商品に、本商會獨り之を有し他店に無き所のもの伏して願はくば急速御用命被仰度候尚地方遠隔の御注文に對しては代金引換小包郵便にて御送附申上候

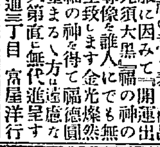
追て其他理想的懷中時計及び目覺置時計數種取揃居り候

時計蓄音器、ミシン機械自轉車、洋酒、各國貨直輸入商

イングレツシー商會

本店 京城本町二丁目電話九七二番

福神(ふくのかみ)無代進呈(あげます)



弊店創業一週年自祝の意を表し商品の呉服に因みて「開運出世惠比須大黑」福の神の金製尊像を誰人にでも無代進呈致します金光燦然たる福の神を得て福德圓滿を望まるゝ方は遠慮なく（ハガキで）御申込次第直に無代進呈す

(トミヤ專用) ●大阪市西區四條通三丁目 富屋洋行

日本郵船仁川出帆

○大連太沽牛莊行

新砂丸	九月十九日	正午出帆
三河丸	十月　日	正午出帆
相模丸	九月廿八日	正午出帆

仁川海岸町一丁目 電話十二番 堀回漕部

朝鮮郵船出帆

本社 電話長一九五二番二三番 鐵道及社外船と荷客運帶聯運の便あり詳細は支店、出張所、代理店、荷客取扱店に御照會願候 京城南大門驛前 京城荷客取扱店 松原運送店(電話一二七〇)

全羅丸	△九月廿五日	釜山發
京畿丸	△九月十五日	釜山發
黃海丸	九月十九日	釜山發
成鏡丸	九月廿九日	釜山發

門司より釜山各港寄港雄基間直航する 但△印は元山釜山間直航する

元山より各港經由雄基行

昌平丸	九月廿日	元山發
鏡城丸	九月十六日	元山發
竹清丸	九月二十日	元山發
忠清丸	九月　日	元山發

城津、清津、西湖行復航釜山經由門司

永興丸 又は長崎延長 北久味、五里浦行 毎月廿八回 元山發

嘉島丸 甘浦、九龍浦、浦項各港寄港鬱陵島行 九月十八日 釜山發

江陵丸	長生浦、方魚津寄港	毎日	(釜山浦項)發
陽丸			
三浦丸	長承浦、麗水、巨文島、濟州島各港行	九月十八日	釜山發
海州丸 巨濟丸	各港經由麗水行(三日目一回木浦行)	毎日	釜山發
統營丸 慶寶丸			
順天丸	各港經由麗水行麗水より釜山行に接續	三日目毎	木浦發
慶興丸	各港經由濟州島行(月八回)	九月十五日	木浦發
公州丸	南多島海列島行(月三回)	九月　日	木浦發
宗信丸	海州他各港經由、鎭南浦行	九月十五日	仁川發
江原丸	青島直行、大連、芝罘行	九月　日	仁川發
麗水丸 初鷹丸	各港經由木浦行	九月二十日	仁川發
全州丸 南陽丸	江華島、桐島、海州行	毎日午前	仁川發
平安丸	往航大黑山、木浦、門司 復航門司、木浦、群山行	九月廿二日	群山發 若松發

尼崎汽船仁川出帆

○群山、木浦、釜山、下關、神戸大阪行

秀吉丸	九月十九日	後四時出帆
君が代丸	九月　日	後四時出帆
神代丸	九月　日	後四時出帆
大有丸	九月十七日	後四時出帆

○群山、大阪行 土海丸 九月　日 後四時出帆

仁川海岸通二丁目 電話五十九番 高杉回漕部

汽船釜山出帆廣告

○門司、神戸、大阪行 小倉丸 九月　日後五時出帆

大阪商船仁川出帆

○中國四國沿岸各港行一割引を以て連絡切符發賣仕候

○外航所屬航路(遼洋航路を除く)間連絡御乘船の時は五分引を以て連絡切符發賣仕候

○群山、木浦、釜山、關門、神戸、大阪行

×漳州丸	九月廿六日	
宮島丸	九月十六日	
須磨丸	九月十九日	
漢城丸	九月廿三日	午後五時出帆

○木浦、釜山、長崎行 ▲は鹽原灣の浦に寄港

×安東丸	九月廿四日	
▲天智丸	九月十九日	午後二時出帆

○鎭南浦、大連行

×安東丸	九月　日	
×天智丸	九月　日	午後二時出帆

○鎭南浦、關門神戸大阪行 漳州丸 九月　日 正午五時出帆

○群山、釜山、横濱行

△千珠丸	九月十八日	
△チヨイサン丸	九月廿七日	午後四時出帆

○元山城津浦鹽行 小倉丸	九月　日	後十時出帆
○門司、神戸、大阪行 立神丸	九月　日	後五時出帆
○元山、清津、浦鹽行 立神丸	九月十六日	後十時出帆
○元山、西湖津、新浦、城津、清津行 第三琴平丸	九月十六日	後九時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行 第三琴平丸	九月　日	後六時出帆
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行 天草丸	毎月二日九日十六日廿三日	午後十時出帆

釜山埠頭立新町 本船取扱店 大池回漕部

○大連直行

△千珠丸	九月　日	正午出帆
△チヨイサン丸	九月廿二日	

○元山、清津、浦潮行(釜山出帆) ▲は城津西湖津に寄港

宮島丸	九月廿七日	
▲城津丸	九月廿二日	午後九時出帆

○上海、基隆、打狗行(大連經由)

臺東丸	九月　日	
基隆丸	九月廿二日	午前十時出帆

御注意 ○朝鮮鐵道及南滿洲鐵道會社との聯車連絡切符發賣仕候 ○御乘船客は本船出帆前約一時間前御乘船相成度候 ○×印は一等客御斷り△印は船客御斷り

仁川切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話一二〇番 五〇番

京城切符發賣所 內國通運會社支店 電話七八〇番

阿波共同汽船仁川出帆

大共同丸 芝罘、大連行 九月十五日後七時入港 九月十七日前九時出港

陸路鐵道主要驛にて荷客連絡輸取扱仕候 大連にて靑島行定期船に接續荷客共通航船と同額運賃にて通し輸送取扱可仕候

第二阪鶴丸 城津、清津、浦鹽行(元山出帆) 九月　日 九月　日後九時出港

第三共同丸 西湖津沿岸各港を經て雄基行(元山出帆) 九月二十日前八時出帆

阿波國共同汽船株式會社 本町一丁目(電話一〇八番) 仁川代理店 山下回漕部 元山代理店 田口回漕部 京城取次店 河村運送店